

2023年3月1日

大正大学地域構想研究所・BSR推進センター

第4回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」

単純集計の結果報告

このたびは弊センターによる第4回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。おかげさまで311件の回答をいただくことができました。

2020年初頭からの新型コロナウイルスの感染拡大とその防止措置によって、皆さまの法務には様々な影響が生じていることと思います。私たち大正大学地域構想研究所・BSR推進センターでは、2020年5月と12月、2021年12月に「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」を実施し、517名（2020年5月）、304名（2020年12月）、352名（2021年12月）と多くの方にご回答をいただきました。その結果については、研究所ホームページ（下記参照）に掲載しておりますが、みなさまが感染防止に最大限の努力をされ、檀信徒とのコミュニケーションをはかられていることが分かりました。一方で、葬送儀礼への影響は大きく、寺院運営や今後の教化活動に不安を抱かれている方も少なくありませんでした。

第1回調査結果 <https://chikouken.org/topics/news/10879/>

第2回調査結果 <https://chikouken.org/topics/news/11610/>

第3回調査結果 <https://chikouken.org/topics/news/13176/>

今回の第4回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」は、新型コロナウイルス感染拡大以後の葬送文化の変化を把握するとともに、寺院全体で今後どうあるべきかを検討していきたいと考えて実施いたしました。その目的のもと、現在の葬送儀礼の状況、また、この一年間での定期法要の実施状況等についてお尋ねするほか、感染拡大から3年経った今、現場で感じている今後の見込みについてもおうかがいしました。

本報告では、回答を単純集計した結果のほか、第2回・第3回と共通の質問項目は、3年間の変化が分るようにグラフを作成しています。なお、自由記述に関しては、弊センターにおいてある程度、分類をいたしましたが、幅広い回答をいただきましたので、不十分な分類となっておりますこと、ご了承ください。自由記述項目の回答は、出来る限り、掲載させていただきました。感染拡大により僧侶同士の交流も限られている中、意見交換の場としてもご覧いただければと思います。

2023年中に第5回の調査を実施したいと考えております（時期未定）。もちろん回答は任意となりますが、その際にご協力いただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

なお、本研究はJSPS科研費 JP20K20336 の助成を受けたものです。

目次

調査概要・回答者属性	…4頁
(1) 葬儀に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどうな状況ですか。	…5頁
(2) 年回法要に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどうな状況ですか。	…6頁
(3) 現在の月参りの件数は、感染拡大以前と比較してどのような状況ですか。	…7頁
(4) 現在、月参りをどのようにおこなっていますか。	
(5) (4)で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。	
(6) 2022年のお盆参り(棚経)はどのようにおこないましたか。	…8頁
(7) (6)で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。	…9頁
(8) 今年(2022年)は、檀家・門徒・信徒を寺院に集めて行う定期法要(彼岸法要や施餓鬼法要、報恩講など)をどのようにおこないましたか。	…9頁
(9) (8)で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。	…11頁
(10) 2022年12月現在、写経会・法話会・坐禅会・念仏講等の定例行事をどのようにおこなっていますか。	…12頁
(11) (10)で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。	
(12) 2022年12月現在、毎年行う落語会やコンサートなどのイベントをどのようにおこなっていますか。	…13頁
(13) (12)で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。	…14頁
(14) 2022年12月現在までの間に、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになった檀信徒はいましたか。	
(15) (14)で「いた」と答えた方にお尋ねします。2022年12月現在までの間に、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになった方の葬儀式(戒名・法号授与、引導作法など)をつとめましたか。	…15頁
(16) (15)で「はい」を選択された方にお尋ねします。どのようにつとめましたか。	…16頁
(17) 新型コロナウイルス感染症で亡くなられた檀信徒のご遺族とかかわるうえで、留意していることや気がかりなことはありますか。	…17頁
(18) 2022年12月現在までの間に、ご所属の寺院内(僧侶、寺族など)で新型コロナウイルス感染症に罹患した方はいますか。	
(19) (18)で「はい」と答えた方にお尋ねします。その方の療養中、法務をどのように対応しましたか。	…19頁
(20) (18)に関連して、法務以外の寺院運営に関して困ったことなどがあればお答えください。	…20頁
(21) 今年(2022年)、新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、年回法要についてどのような相談を受けていますか。	…22頁
(22) 今年(2022年)、新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、生活上のどのような相談を受けていますか。	…23頁

- (23) 2022年12月現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、今後の法務や寺院運営に関する見通しについて、どう考えますか。 …24頁
- (24) 寺院からの情報発信の手段として以下のものを使用していますか。 …25頁
- (25) 新型コロナウイルス感染拡大以降(2020年以降)、寺院として新しくはじめたことはありますか。 …26頁
- (26) 26) ご意見や感想等ございましたら、自由にお書きください。 …27頁

○調査概要

・方法：インターネットによるWEBアンケート

アンケートページアドレス：<https://forms.gle/77be6AJuFGLfijAt8>

・調査期間：2022年12月5日（月）※～12月26日（月）

（※大正大学地域構想研究所ホームページへの掲載、メールでの調査協力送付の日）

・有効回答数：311名

316件の回答の内、メールアドレスの重複が5件（すべて重複回数は2回）あった。

それぞれ回答日時の新しいものを採用し、古いものを削除した。

○回答者属性

・所属宗派

宗派	回答数
浄土宗(各派)	145
浄土真宗(各派)	67
真言系(各派)	24
曹洞宗	20
日蓮宗	15
臨済宗(各派)	13
天台宗	10
時宗	5
黄檗宗	3
融通念仏宗	3
その他	6
合計	311

・寺院の所在地

北海道	7	東京都	61	滋賀県	10	香川県	5
青森県	7	神奈川県	27	京都府	12	愛媛県	1
岩手県	2	新潟県	4	大阪府	19	高知県	0
宮城県	5	富山県	6	兵庫県	11	福岡県	8
秋田県	2	石川県	1	奈良県	7	佐賀県	3
山形県	5	福井県	3	和歌山県	2	長崎県	1
福島県	8	山梨県	3	鳥取県	2	熊本県	1
茨城県	4	長野県	6	島根県	4	大分県	3
栃木県	2	岐阜県	4	岡山県	0	宮崎県	1
群馬県	3	静岡県	20	広島県	7	鹿児島県	2
埼玉県	10	愛知県	10	山口県	2	沖縄県	0
千葉県	7	三重県	3	徳島県	0	合計	311

・立場

立場	回答数
住職	220
副住職	70
寺庭(坊守)	10
その他	11
合計	311

・年齢

年代	回答数
20代	10
30代	41
40代	121
50代	94
60代	34
70代	10
80代以上	1
合計	311

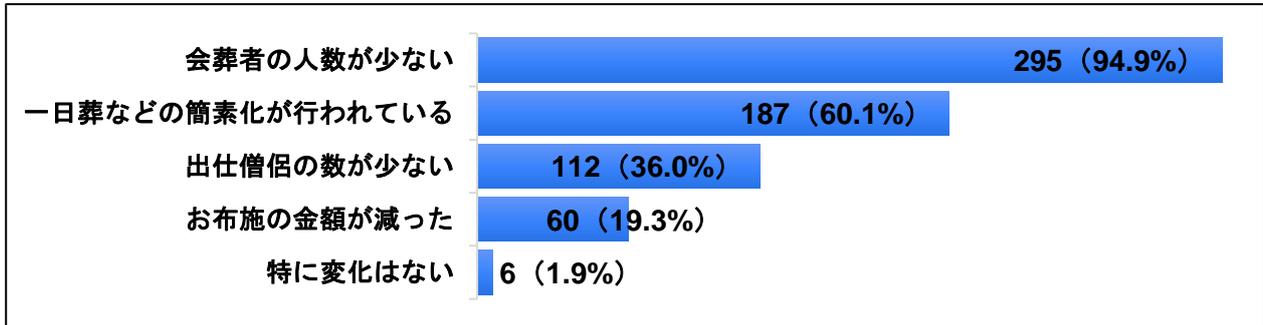
・性別

性別	回答数
男性	282
女性	28
その他	1
合計	311

・調査協力回数

調査協力の経験	回答数
第1回	18
第2回	1
第3回	8
第1回, 第2回	22
第1回, 第3回	4
第2回, 第3回	8
第1回, 第2回, 第3回	130
第1回, わからない	8
第1回, 第2回, わからない	2
第1回, 第2回, 第3回, わからない	4
今回がはじめて	51
わからない	55
合計	311

(1) 葬儀に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどうな状況ですか。(複数回答可)

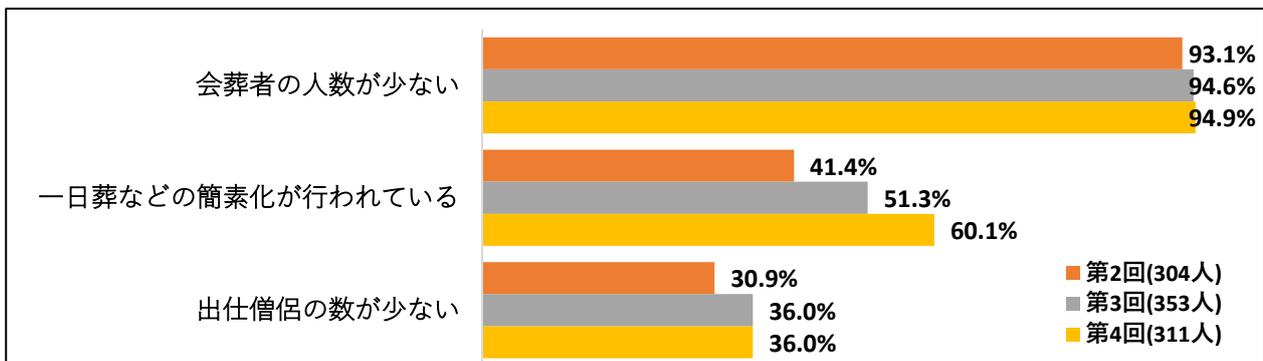


その他(自由記述)の主なもの

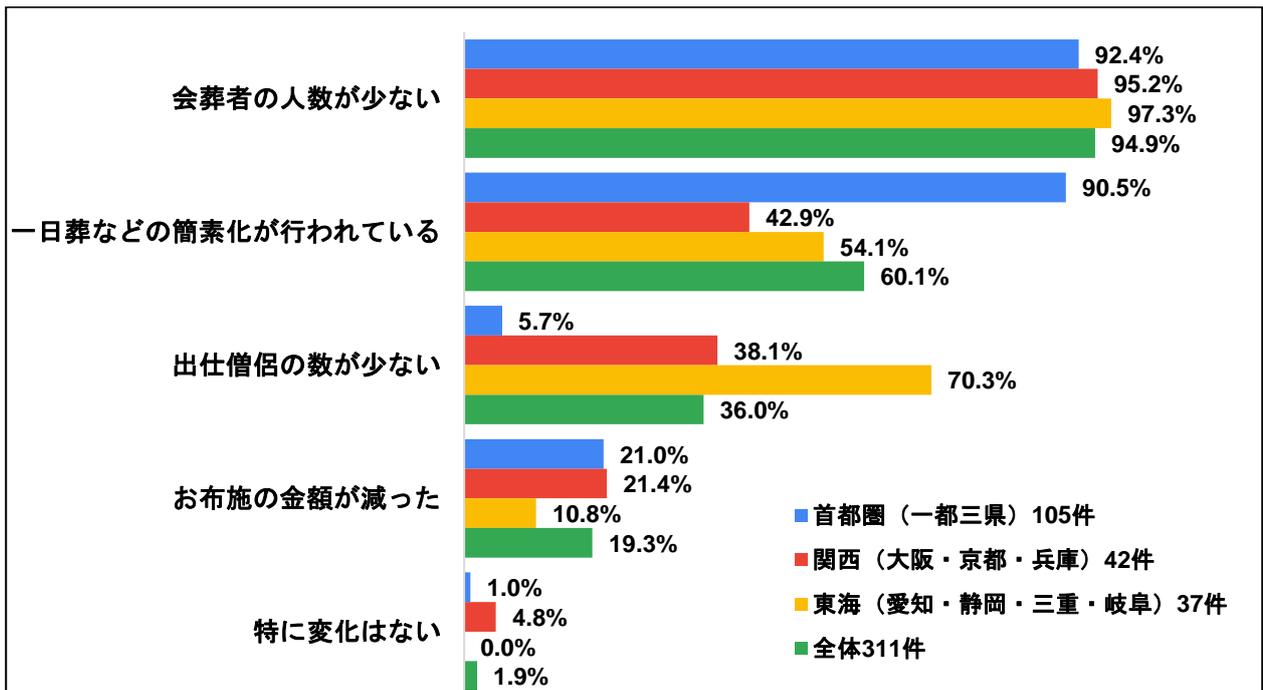
◇以前の状態に戻りつつある(3件)

◇会食(通夜ぶるまい・精進落とし)がなくなった(3件)

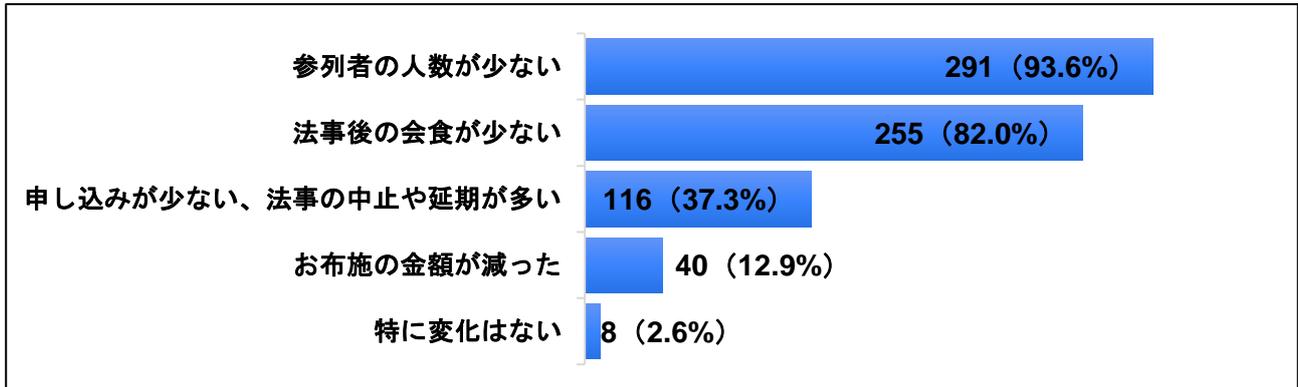
※第2回・第3回との比較



※地域比較



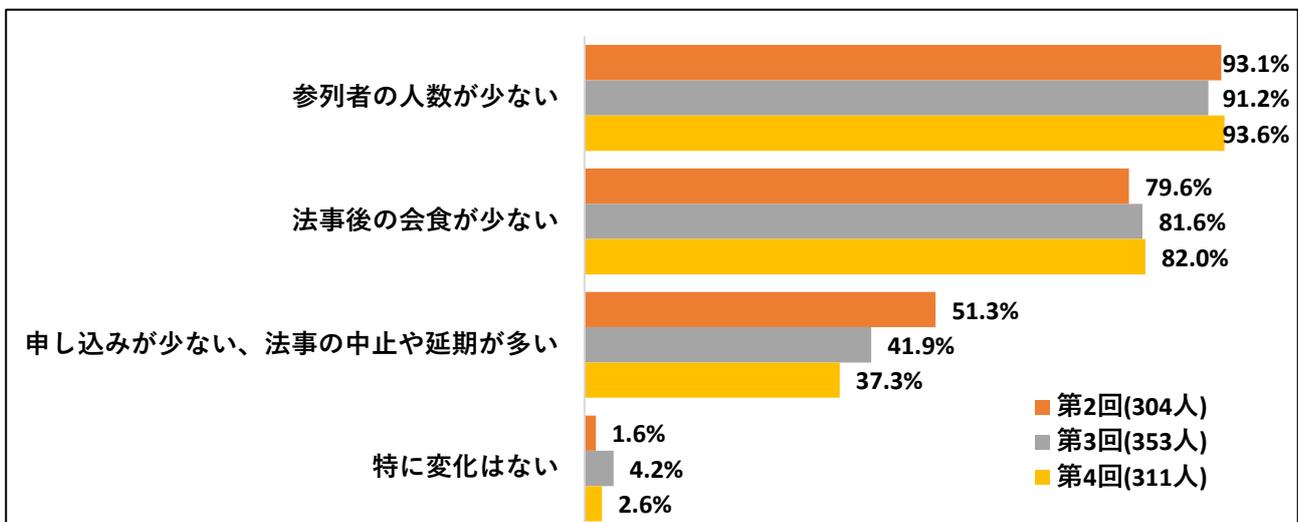
(2) 年回法要に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどのような状況ですか。(複数回答可)



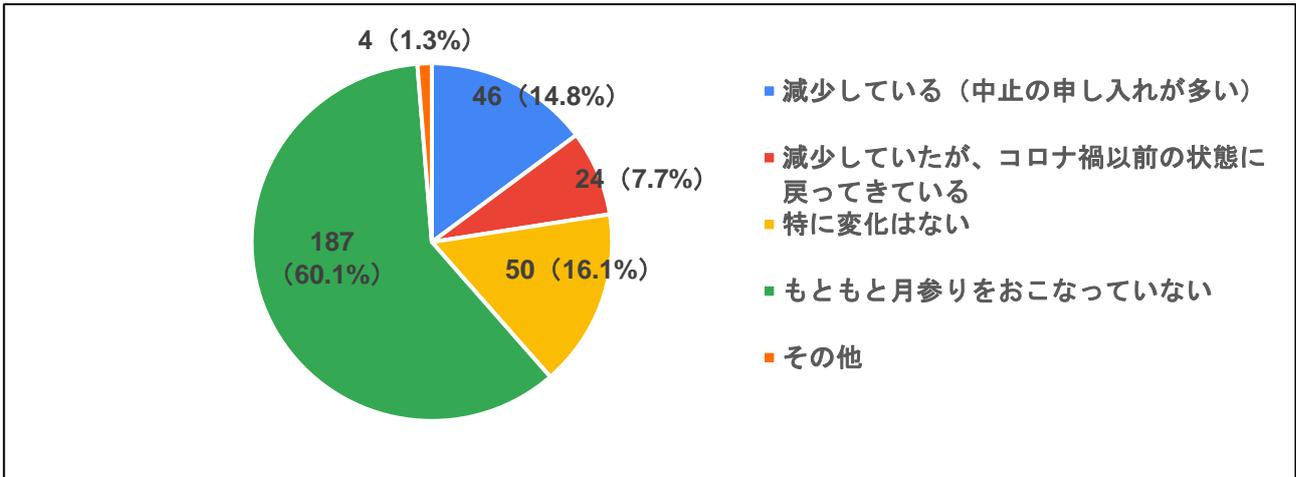
その他 (自由記述)

- ・オンライン希望やオンライン参列もある。
- ・ご命日を過ぎてからの法要が増えた。
- ・お寺での法事が増えた。
- ・越県の方は特に自粛・家族からの要請で参列見送りの傾向が強い。
- ・墓や自宅での法事依頼が増えた。
- ・法要延期後、再度の厳修が少ない。
- ・法事後に会食を挟まずお弁当を参加者に手渡しして解散する。
- ・法要への参加者を役員のみと制限している状況です。
- ・お布施を送付され、院内で執り行うことが増えた。
- ・住職一人での代理法要も選択肢として案内している。
- ・卒塔婆の本数が減った。
- ・参列者や会食など戻ってきている。
- ・役僧のお断りが多い。

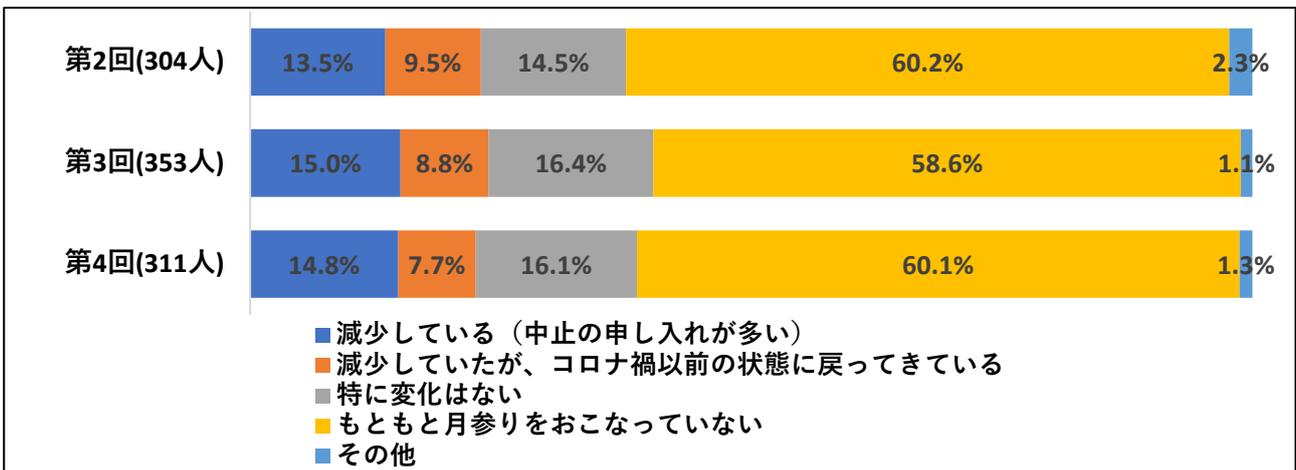
※第2回・第3回との比較



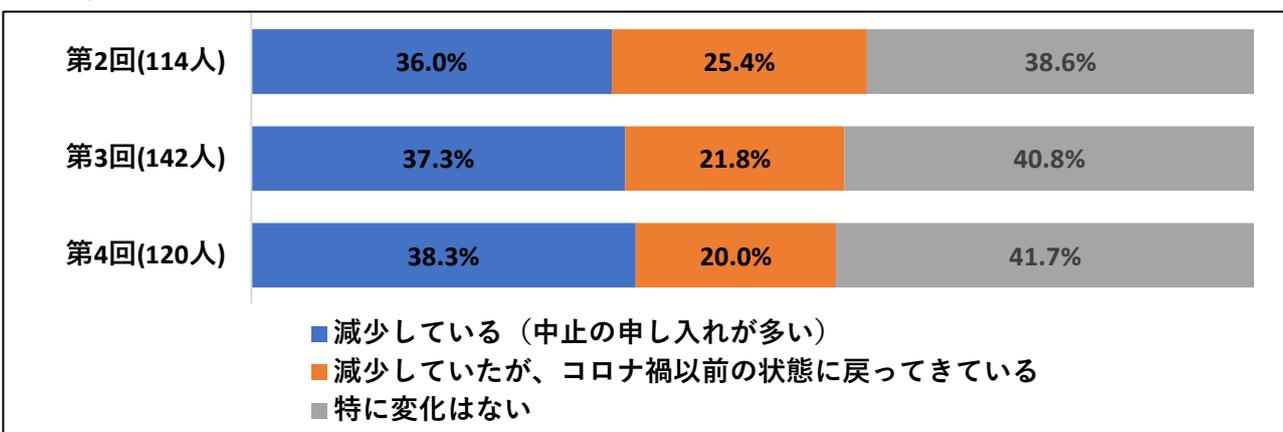
(3) 現在の月参りの件数は、感染拡大以前と比較してどのような状況ですか。



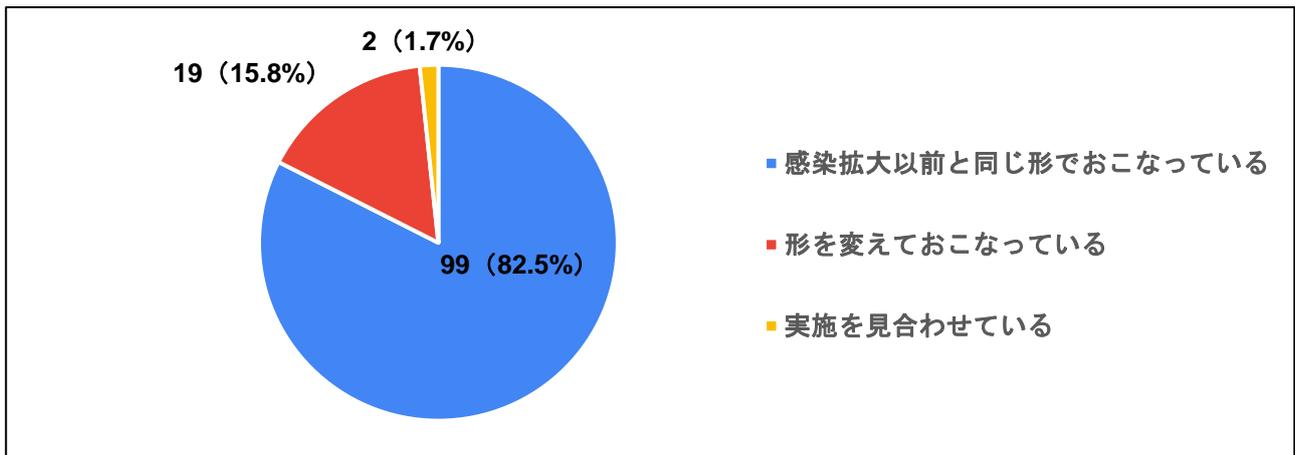
※第2回・第3回との比較



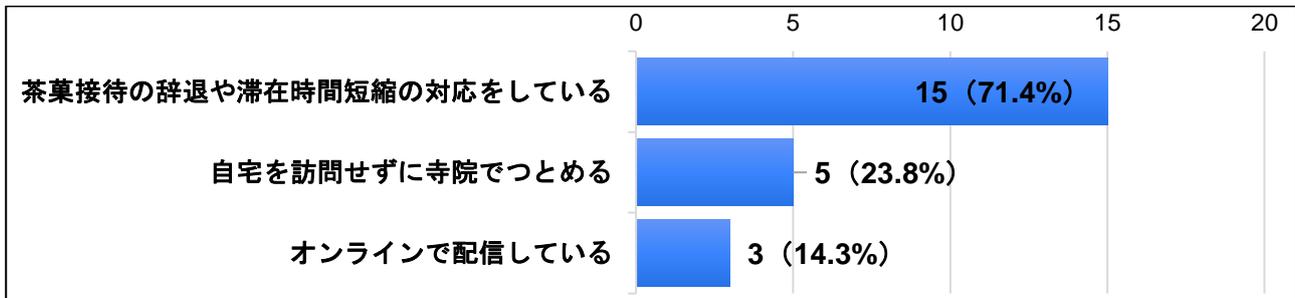
※月参りを行っている回答者（「減少している」「コロナ禍以前に戻ってきている」「特に変化はない」を選択）のみを抽出した第2回・第3回との比較



(4) 現在、月参りをどのようにおこなっていますか。



(5) (4) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。(複数回答可) (24件の回答)



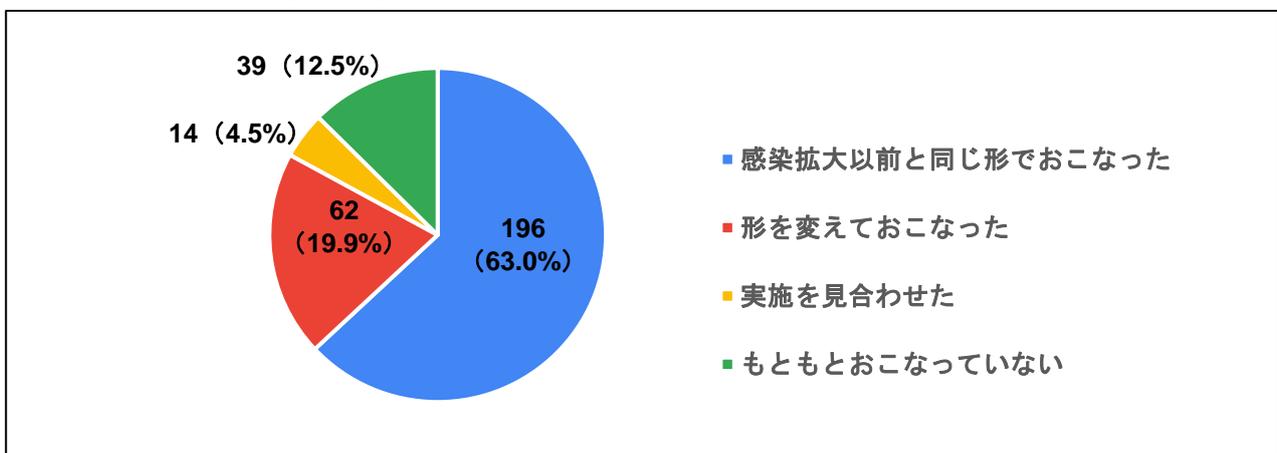
その他(自由記述)の主なもの

◇マスク着用、手指消毒(4件)

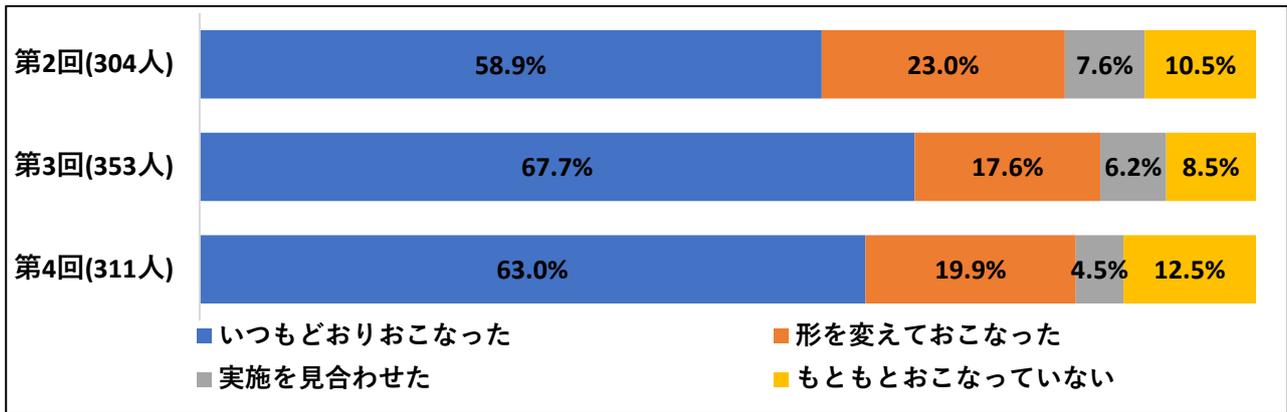
◇その他

- ・お布施を送付され、院内で執り行うことも選択肢に含めている。
- ・お札・お線香・施本を手渡したりせず、何日かしたら仏壇から下げて見て戴く御願いをしている。
- ・コロナ・インフルエンザ等の流行期には見合わせや訪問の確認を行う。

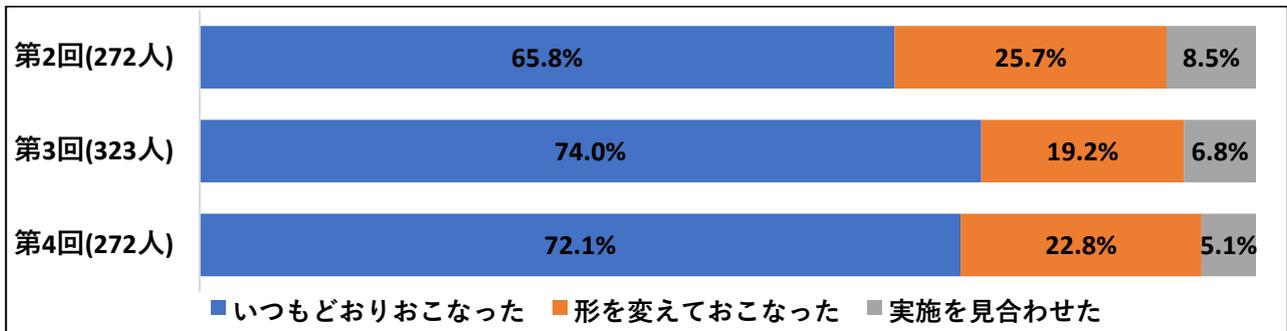
(6) 2022年のお盆参り(棚経)はどのようにおこないましたか。



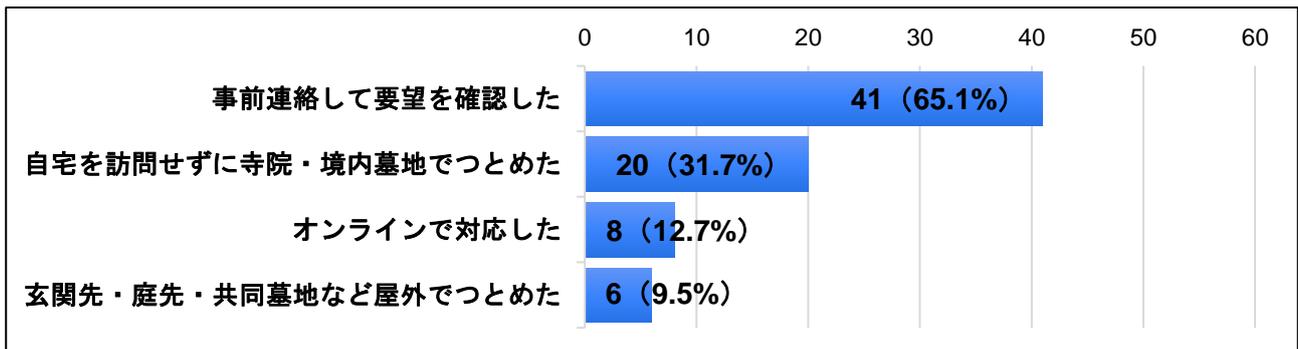
※第2回・第3回との比較



※棚経を行っている回答者（「いつもどおりおこなった」「形を変えておこなった」「実施を見合わせた」を選択）のみを抽出した第2回・第3回との比較



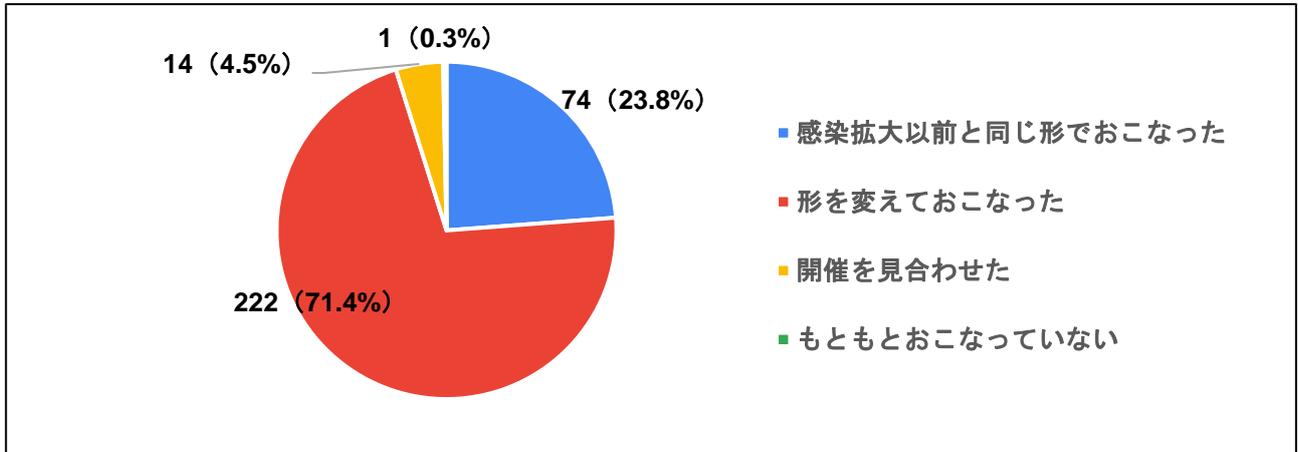
(7) (6) で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようなおこないましたか。(複数回答可) (63件の回答)



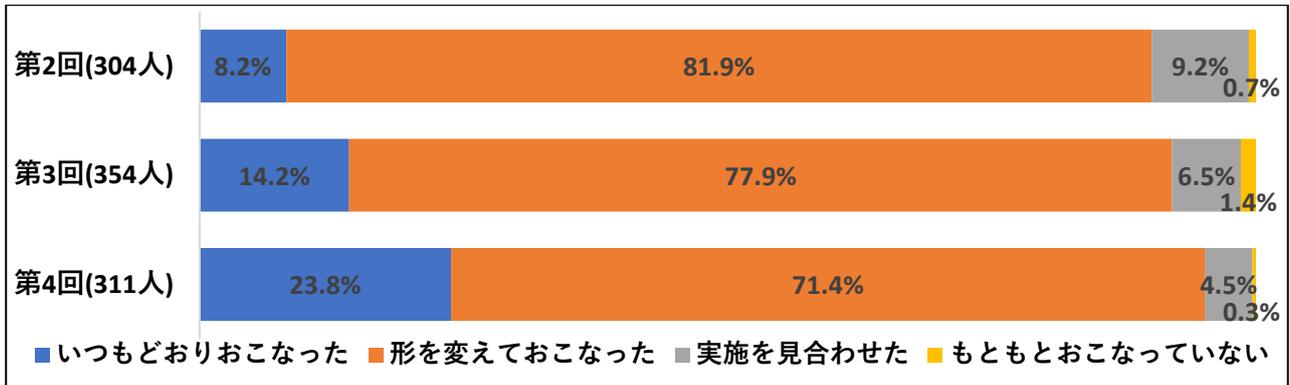
その他（自由記述）の主なもの

- ◇選択提示・希望確認 (5件)
- ◇初盆などに限定 (3件)
- ◇マスク着用・手指消毒 (2件)
- ◇滞在時間短縮・茶菓接待辞退 (2件)

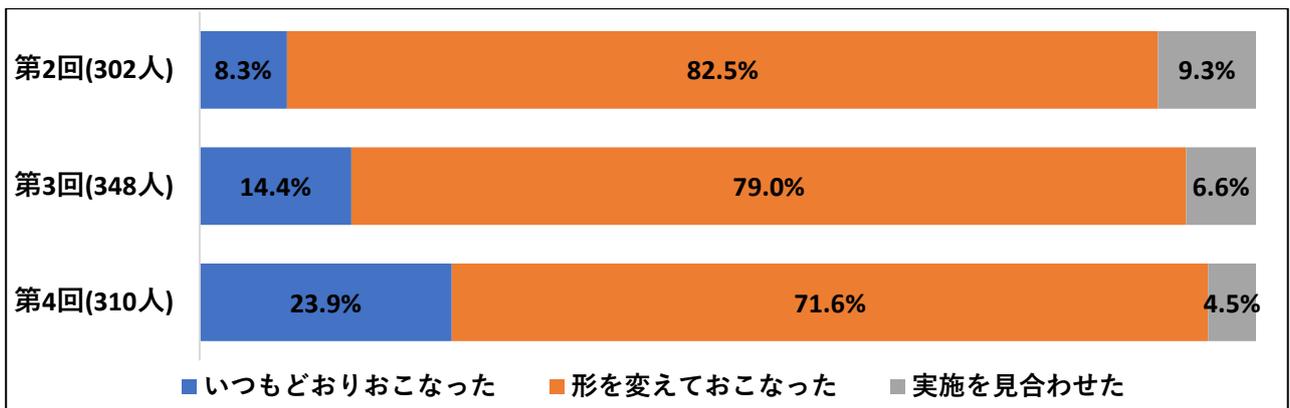
(8) 今年(2022年)は、檀家・門徒・信徒を寺院に集めて行う定期法要(彼岸法要や施餓鬼法要、報恩講など)をどのようにおこないましたか。



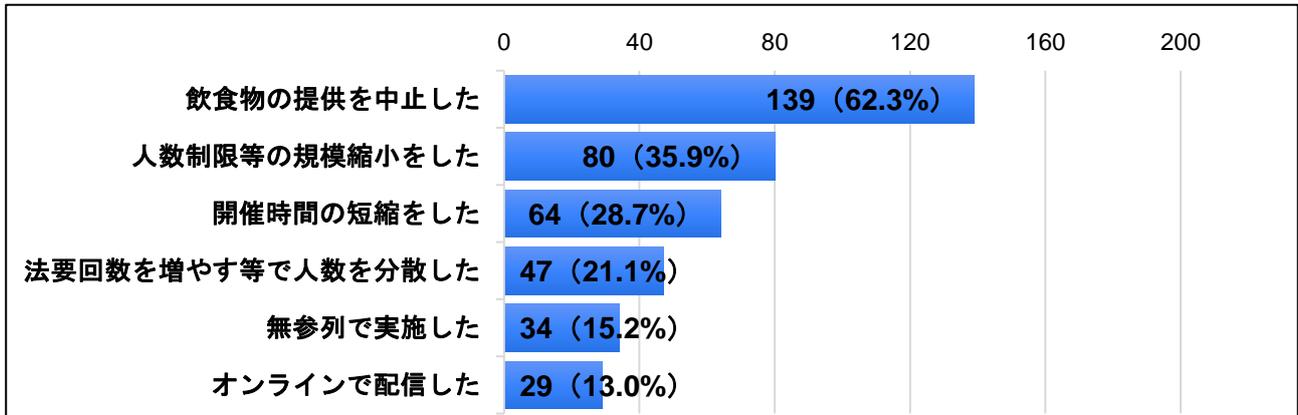
※第2回・第3回との比較



※定期法要を行っている回答者(「いつもどおりおこなった」「形を変えておこなった」「実施を見合わせた」を選択)のみを抽出した第2回・第3回との比較



(9) (8) で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなないましたか。(複数回答可) (223 件の回答)



その他 (自由記述) の主なもの

◇屋外で参列・焼香、堂内入場制限 (6 件)

- ・予約制とし境内地に滞留する人数のコントロールを図った。
- ・本堂の外からも焼香できるようにし、本堂内の様子を見て着席するかの判断を各自で行なっていただく様にした。

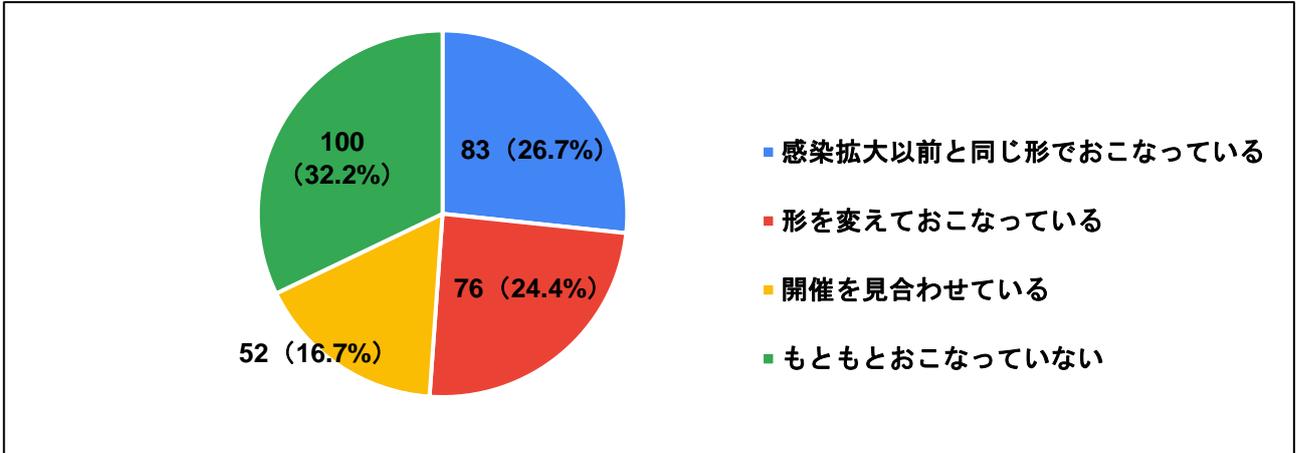
◇出仕僧侶数を削減 (4 件)

◇持ち帰り用軽食・弁当の配布 (3 件)

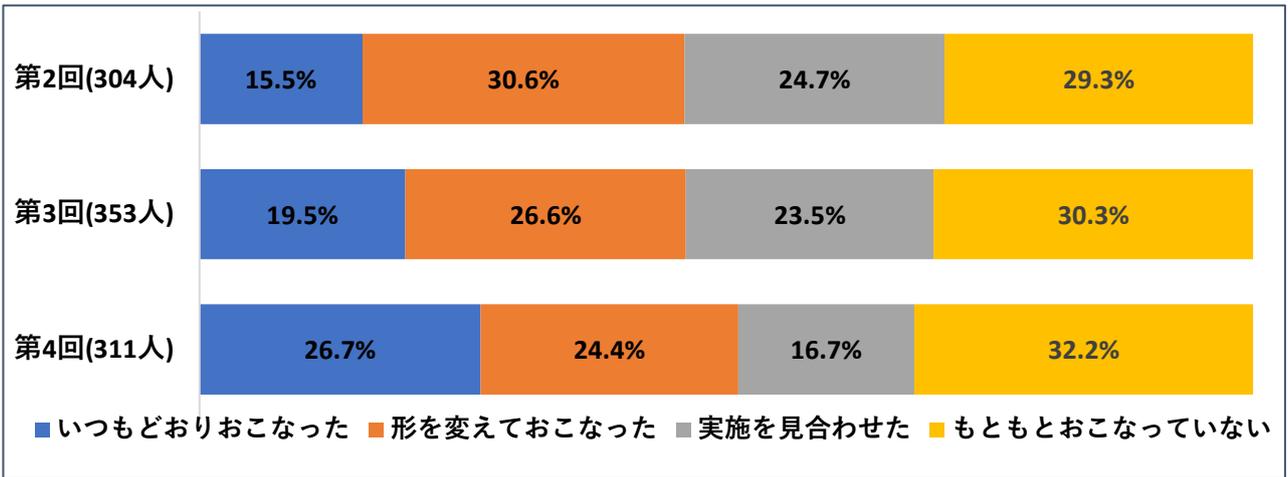
◇その他

- ・複数の会場を用意し、各会場へ本堂での法要を映像中継した。
- ・本堂での演奏奉納を行った(笛とハーブ)。
- ・地区で時間割りをして塔婆をお渡しした。
- ・本堂、庫裏でのリモート。
- ・今までは法要の最後までお檀家さんに参加していただいていたが、回向が終わればご自由に帰っていただけて結構ですというアナウンスを入れるようになった。
- ・出欠確認を必ず取るようになった。
- ・積極的案内は寺院方にだけ、檀信徒には強く出席を希望された方にだけ開催の案内。

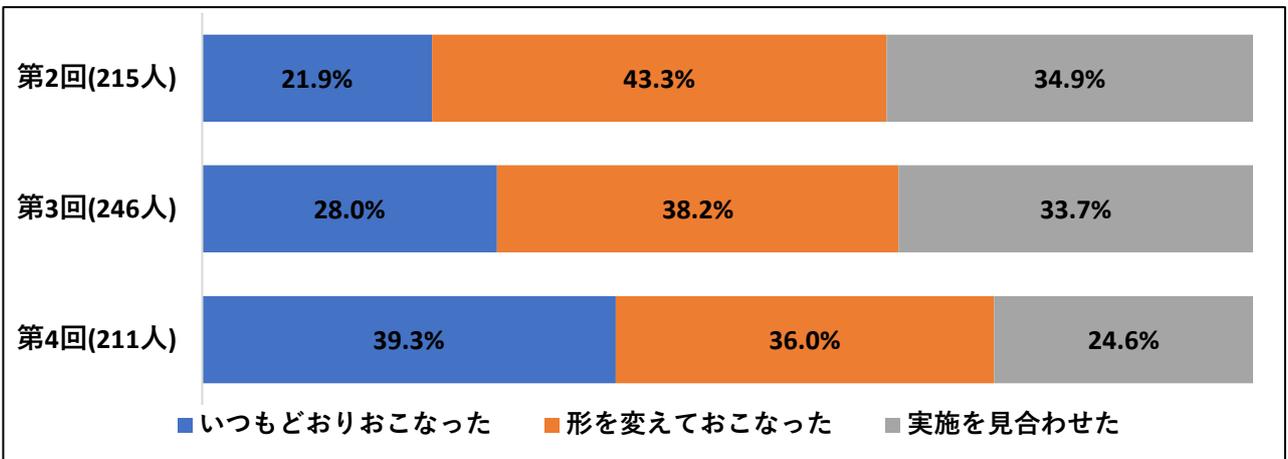
(10) 2022年12月現在、写経会・法話会・坐禅会・念仏講等の定例行事をどのようにおこなっていますか。



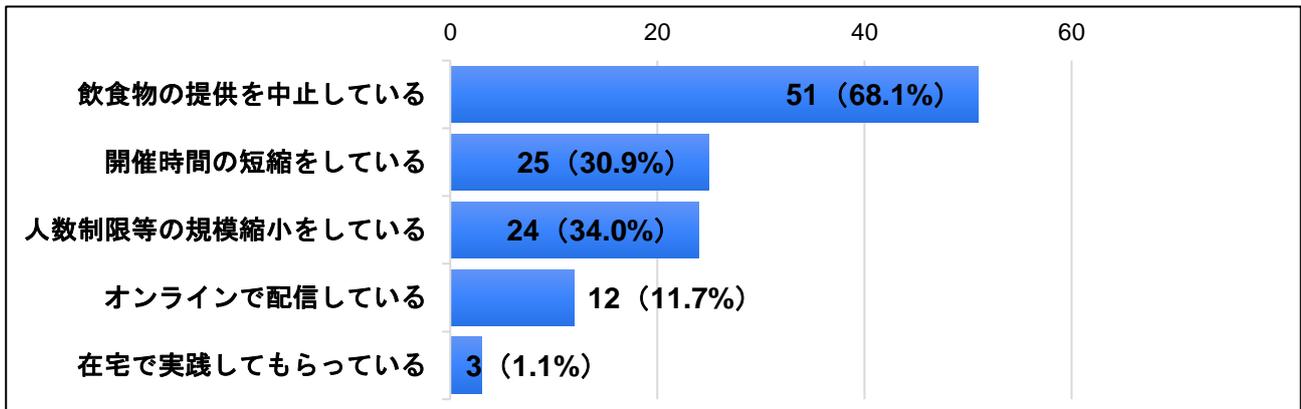
※第2回・第3回との比較



※定例行事を行っている回答者（「いつもどおりおこなった」「形を変えておこなった」「実施を見合わせた」を選択）のみを抽出した第2回・第3回との比較



(11) (10) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。(複数回答可) (78件の回答)



その他(自由記述)の主なもの

◇感染対策 (3件)

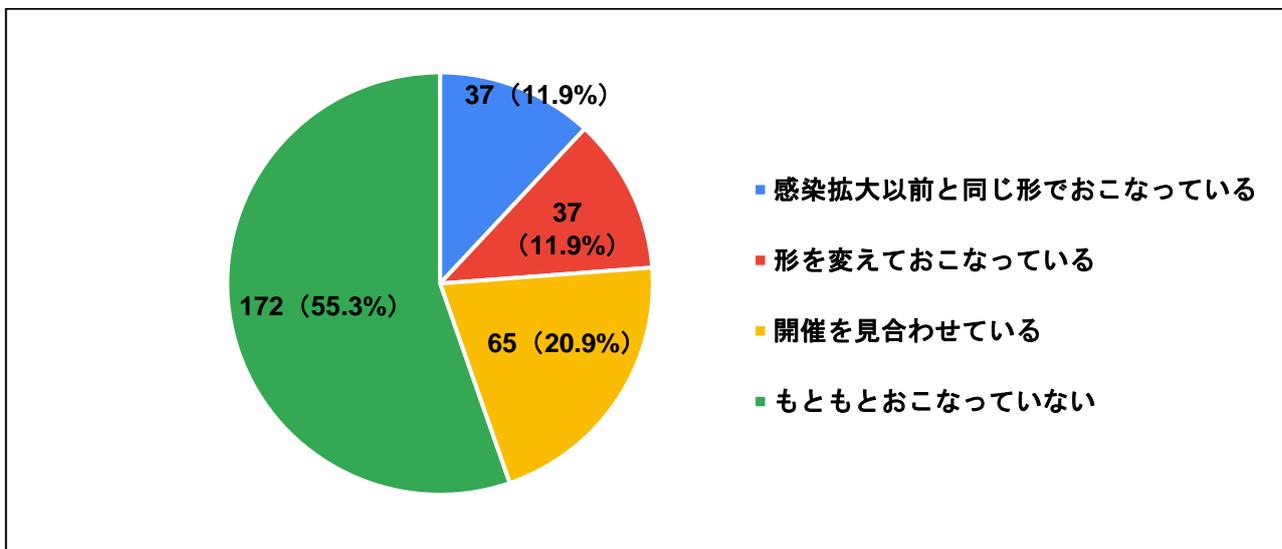
◇オンライン (2件)

- ・オンラインで「配信」ではなく、双方向にコミュニケーションを取りながら行なっています。

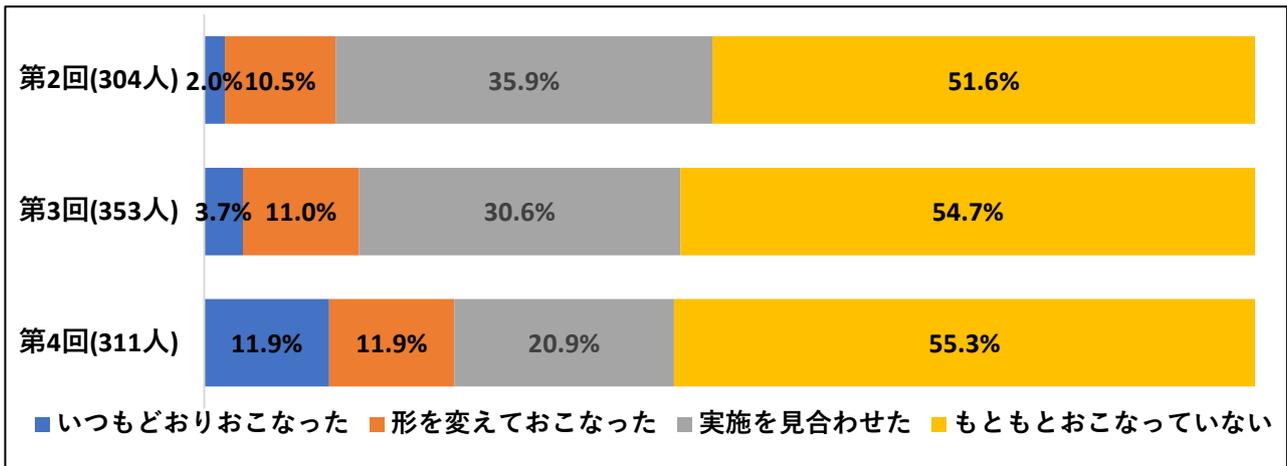
◇その他

- ・参詣時間を朝から夜まで延長して分散参詣とした。
- ・開催の1週間前に判断し、感染者数多い時期は中止にしている。
- ・開催数を減らした。
- ・参加者と事前に相談し、出来る限り希望に沿って実施。
- ・回数を増やして、各回最大10名未満で行っている。
- ・事前予約制にした。
- ・百万遍数珠繰りをしていない。

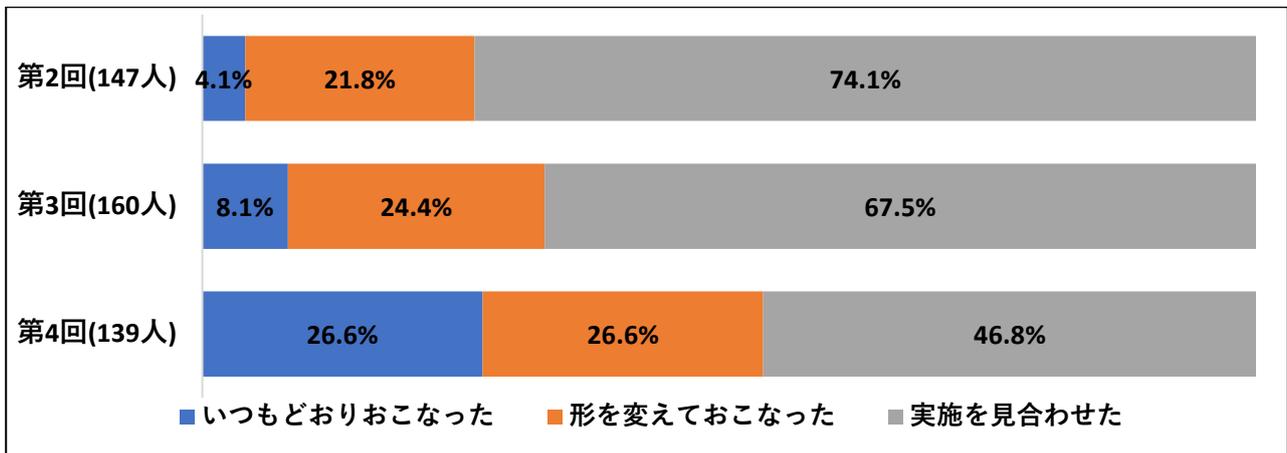
(12) 2022年12月現在、毎年行う落語会やコンサートなどのイベントをどのようにおこなっていますか。



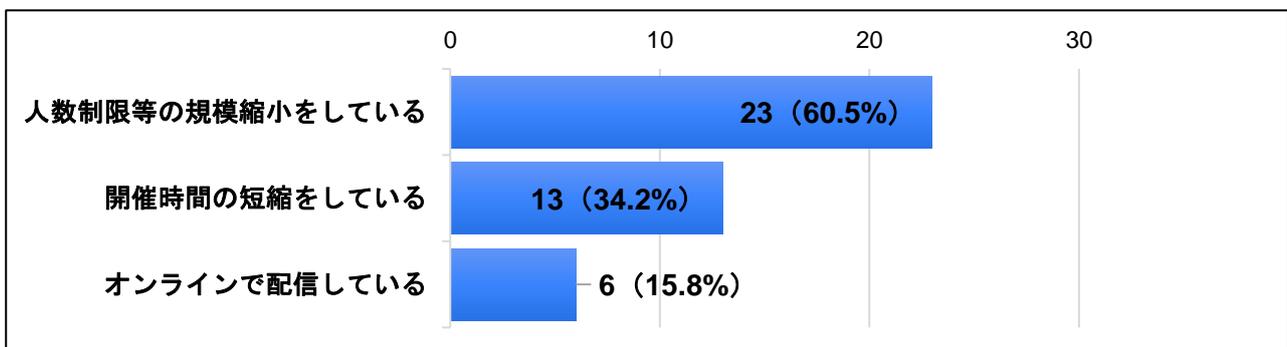
※第2回・第3回との比較



※イベントを行っている回答者（「いつもどおりおこなった」「形を変えておこなった」「実施を見合わせた」を選択）のみを抽出した第2回・第3回との比較



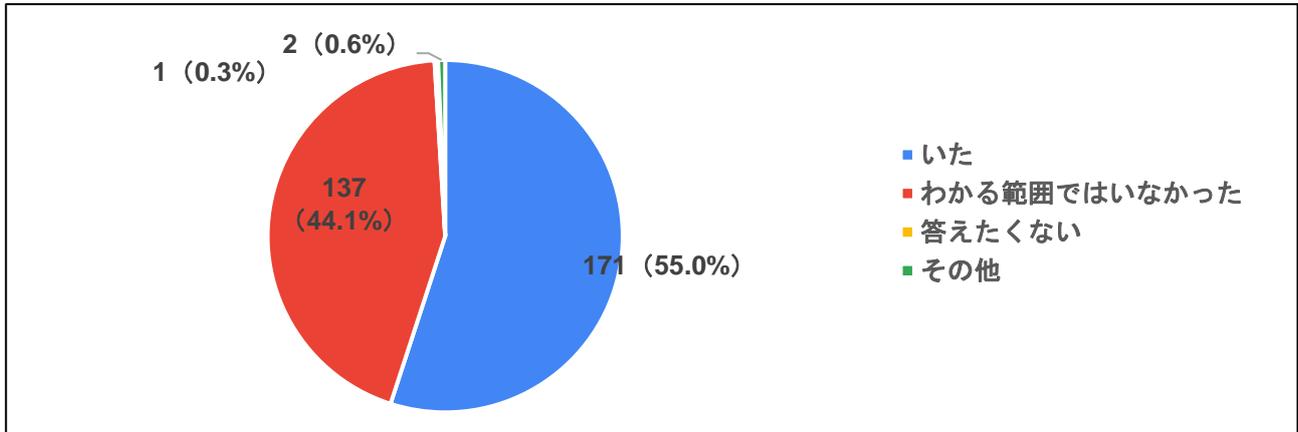
(13) (12) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。（複数回答可）（38件の回答）



その他（自由記述）

- ・縁日などは期間を延長して分散型で行っている。
- ・感染状況の落ち着いた時に、扉を全部開けて。
- ・食事を略しイベントを先に行った。

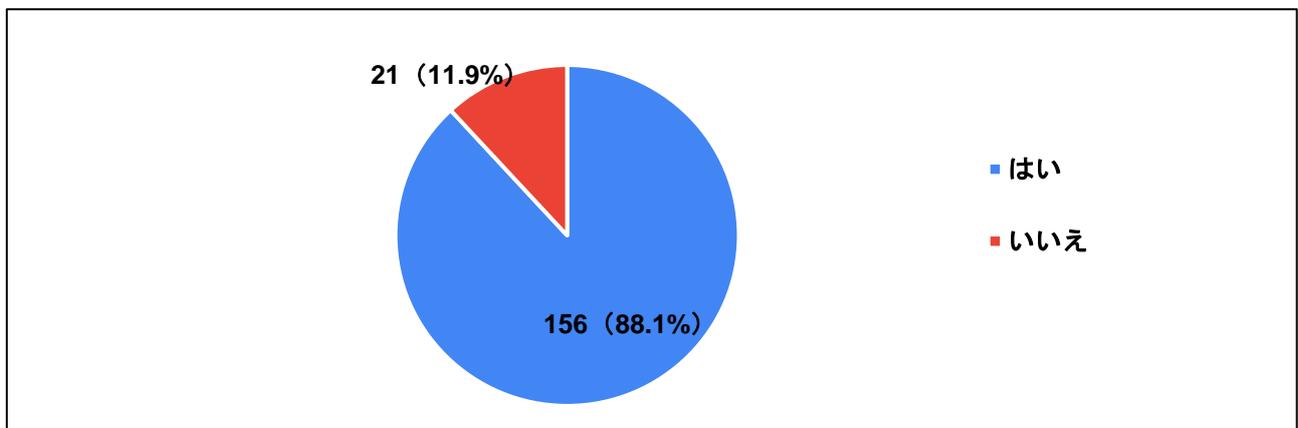
(14) 2022年12月現在までの間に、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになった檀信徒はいましたか。



その他（自由記述）

- ・依頼の葬儀案件でいました。
- ・コロナの後で体調を崩して亡くなった方がいたが直接原因か不明

(15) (14)で「いた」と答えた方にお尋ねします。2022年12月現在までの間に、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになった方の葬儀式（戒名・法号授与、引導作法など）をつとめましたか。（177件の回答）



(16) (15) で「はい」を選択された方にお尋ねします。どのようにつとめましたか。

◇火葬後につとめた（直後～半月程度）（96件）

- ・ご家族と一緒に病院の霊安室で遺体袋に入れられたご遺体に枕経を勤め、そのまま火葬。その後は通常通りの通夜葬儀を行なった。
- ・ご家族も濃厚接触者だったため、故人は火葬の上、ご家族も保健所の指示に従い自宅待機なされ、保健所からの許可が下りてから葬儀を執り行った。
- ・火葬直後に本堂にてご遺族とともに枕経のような趣旨でおつとめ。その後、日を改めて葬儀を行った。
- ・火葬炉の前で簡易的に枕経を行い、授与法名。翌日会館において、本葬儀の形にて執り行い、初七日法要も併せて行った。

◇通常通りにつとめた（28件、内5件は火葬後につとめるが骨葬の地域のため「通常通り」と回答）

- ・遺族の強い要望もあり、参加者の制限や消毒、距離指定を徹底した上で通常通りの葬儀を行った。
- ・骨葬を取り行った。（もともと骨葬を行う風習がある地域なので、大きな違和感はない）
- ・葬儀式場で普通に葬儀式をしました。ご遺体が頑丈な袋に入った状態で納棺されていたので、お顔を見ての最後のお別れや 棺の中にお花を入れる献花はしませんでした。
- ・エンバミング後、普通に葬儀。
- ・葬祭会館に運ばれて枕経を行ってから、感染症でお亡くなりになったことが分かった。遺族の心情を第一に、葬儀社とも協力して通常通り、通夜、火葬、葬儀を行った。

◇納骨時（四十九日忌）につとめた（26件）

- ・施主も濃厚接触者のため、葬儀は行えず、四十九日に通夜、葬儀、初七日、四十九日、埋骨をまとめて行わざるを得なかった。

◇火葬炉前につとめた（11件、火葬炉前での読経後、骨葬儀執行も含む）

- ・懇意にしている火葬場スタッフと事前に打ち合わせ、棺が火葬場に到着したタイミングで棺の見える少し離れたところから最低限ではあるができ得る限りの形で戒名授与、棺の上に授与した血脈を置いてもらい念仏一会で炉に見送り、火葬終了後に遺族とともに収骨してその日は解散。日を改めて自坊の本堂で葬儀式を勤めた。

◇その他

- ・人数制限の葬儀を執り行う。
- ・ご遺族も感染していたため、火葬の日時にあわせて、参拝者なく住職が本堂にて葬儀式を行い、後日、ご遺族がコロナを完治させてからご自宅で再度、ご家族のみで葬儀式を執り行いました。（「火葬後につとめた」にもカウント）

(17) 新型コロナウイルス感染症で亡くなられた檀信徒のご遺族とかかわるうえで、留意していることや気がかりなことはありますか。(150件) ※明確に分類することは難しく、複数の項目に重複してカウントしている回答あり。

◇傾聴、丁寧なコミュニケーション、グリーフケア (29件)

- ・故人とゆっくりお別れができなかったことに依るご遺族のお心の不安や痛みを丁寧に聴かせていただくこと。
- ・常ならぬ見送りであると言うことを念頭に置き、葬儀そのものがグリーフケアになるようつとめている。
- ・やりきれぬ気持ちを察して、なるべく相談に乗り、いつも以上に関わる様にした。
- ・お別れに満足できていない可能性を考え、より丁寧にご遺族と意思疎通できるように心がける

◇できるだけいつも通りに接する (27件)

- ・どのような亡くなられ方でもそうですが、ご遺族のご様子を見ながら対応するようにしています。特別扱いし過ぎないようにも留意しています。
- ・ご遺族の方々も、通常とは違う形での葬送を強いられている。が、我々僧侶が腫れ物に触る対応をして逆に傷つけてしまうことのないよう、つとめて普段通りにするよう心がけている。
- ・できるだけ普段と変わらず丁寧な見送りになるように心がけている。
- ・先方から言われたい限りとくに意識しないようにしているが、感染原因による区別はしないこと。

◇特になし (26件) ※「できるだけいつも通りに接する」との区別が難しいため、ここでは「特になし」「特にしていない」という回答をカウントしている。

◇あいまいな喪失、通常のお別れができないことへの配慮 (24件)

- ・別れがなかった分だけ喪失感がぼやけている。実感がわからないまま葬儀をしている様子。
- ・通常と異なる法要の形となることに、わだかまりを持たないようにしてもらおう。
- ・ご遺体に触れられなかったり、顔を見ることができない場合、ご遺族のやるせなさをどういった形で昇華できるのか、考えなければいけないとは感じている。
- ・火葬後に葬儀を執り行なった遺族から「亡くなった気がしない」と聴けた。「死に目に会えずとも別れはできていた」と伝えた。
- ・遺族は死に目に会えないことはもちろん、火葬にも同行できなかったので混乱だけが残り別離の感覚をうまく持てていないように感じた。そのために火葬直後に本堂でおつとめと法話を行った。

◇遺族の後悔、負い目 (9件)

- ・故人が高齢の方が多く、デューサービスで感染して逝去された方やもう少し注意すればとの遺族が贖罪意識をお持ちの方が多くで対応やお話し(法話)等でも気をつけている。
- ・家族の状況によっては、一番近い人ほど法要の一部しか参列できず、その方自身がお別れをしっかりとできなかったことを悩まされていた。いつも以上に、お寺がしっかり弔いをしていることを伝えている。
- ・対面での最後のお別れができず、今でもコロナに感染したことを悔やんでいる。
- ・正式な葬儀を行わず、簡単に済ませてしまったという故人に対する負い目を感じる喪主が多かった様に思う。すべきことは葬儀と同じ様に全て済ませたことを説明することを心がけた。

- ・連れ合いを亡くした奥様が、葬儀や満中陰では、子や孫の前で気丈に振る舞われていたが、私しかない場面で、「入院中、コロナで面会できず、最後までそばに居てあげられなくて悔いが残るんです」と聞いたことで、そういう心境を踏まえて対応するようにしています。

◇話題として触れない（6件）

- ・コロナの話題はこちらから触れない。
- ・今回のご遺族に関しては、感染症で亡くなったことを知られたくない、また不名誉に感じていることを察したので、そのことについてあまり触れずに、あくまでも通常の葬儀と同様に勤めた。

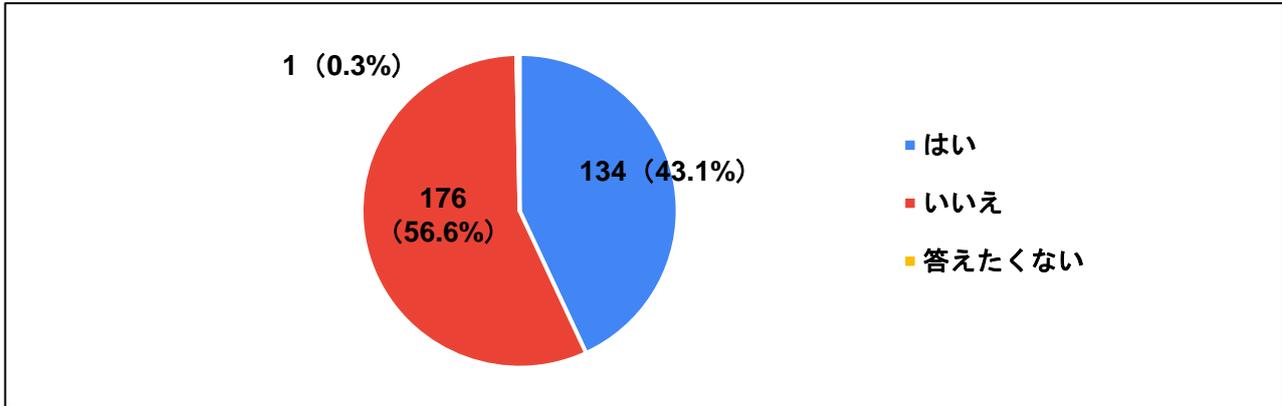
◇死因の守秘（5件）

- ・62歳のご主人を突然コロナ感染症で亡くされて、93歳の父親と60歳の奥様は落胆しています。コロナでの死亡の件が 徐々にはご近所に伝わるとは思いますが、お坊さんから発信しないように努めています。
- ・ご近所には伏せている、との事だったので新盆時のご自宅への出入りなどに若干配慮した。

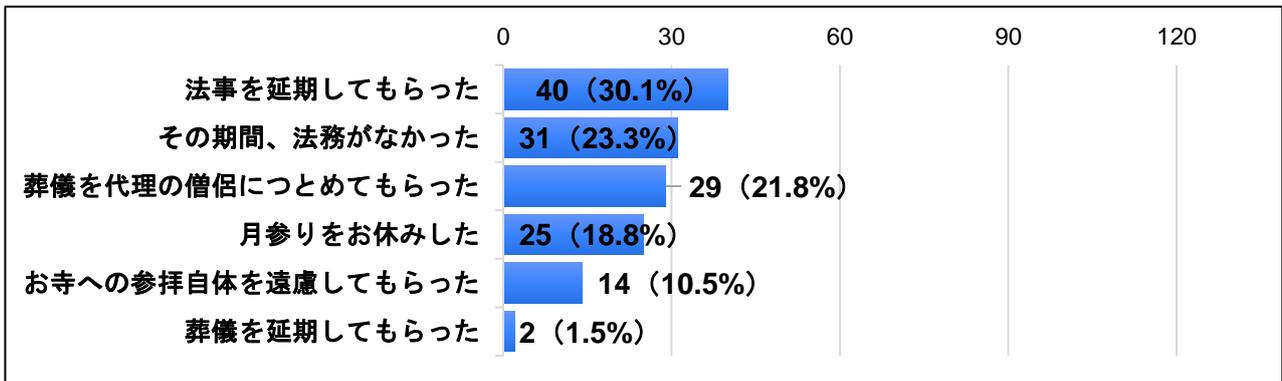
◇その他

- ・誰のせいでもなく病というものはどうしても人の命を奪ってしまうものである、と伝え、犯人捜しをしないようにする。
- ・コロナ感染についてのイメージが以前よりは特別なものではなくなってきた実感はあるが、そのあたりのニュアンスを軽減させるような接し方ができればと思っている。

(18) 2022年12月現在までの間に、ご所属の寺院内（僧侶、寺族など）で新型コロナウイルス感染症に罹患した方はいますか。



(19) (18)で「はい」と答えた方にお尋ねします。その方の療養中、法務をどのように対応しましたか。(133件)



その他（自由記述）

◇通常通り（12件）

- ・住職とは住居が別であるため、住職が一人で法要をつとめていた。
- ・副住職が罹患しましたが、幸い保健所の判断で濃厚接触しない為、通常法務が出来ました。

◇法事を代理の僧侶につとめてもらった（6件）

- ・近隣の僧侶にいつでも代理してもらえるように約束しており、また門信徒にも周知してあるので、月忌参りなど法務は全て代理してもらえる状態を築いてある。
- ・当該（感染者・濃厚接触者）は隔離（人前に出ないように）して、他の僧侶スタッフが対応した。

◇法事をお休みした（3件）

- ・お彼岸の棚経を、隔離期間控えた。
- ・お盆参りを中止した。

◇その他

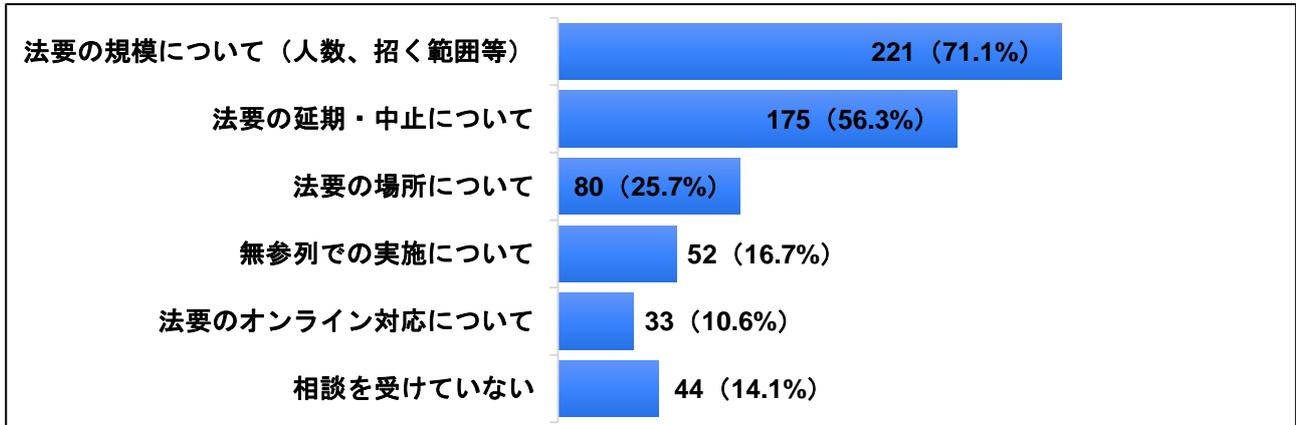
- ・お墓参りの方と対面する必要のないよう、線香と線香付けを玄関外に配置し、各自で火をつけてもらうようにした。
- ・寺内で法要・塔婆回向を行ない、後日お檀家さんがお参りにいらっしゃいました。
- ・本堂で距離を保ち換気を全開で実施しました。

(20) (18) に関連して、法務以外の寺院運営に関して困ったことなどがあればお答えください。
(69件) ※一部抜粋

- ・1人住職なので葬儀はなかったがその可能性を考えて心配した
- ・4世代同居なので、住職、副住職が行動を共にしないようにしている。家族間コミュニケーションが不足している。
- ・お寺にきた檀信徒などへの対応が難しかった。寺院内で感染拡大をしないための隔離。
- ・コロナが落ち着いてからのお齋ができるようになるのか不安がある。
- ・その時に代わりがない場合が不安。
- ・たまたま葬儀がなくよかったが、もし葬儀のご縁があったらどうしようかとヒヤヒヤしていました。
- ・やはり、自分自身が罹患してしまった時に、いわゆるスーパースプレッダーになってしまうのではないかと恐れている。
- ・やはり人で不足が顕著です。
- ・境内の掃除が滞った。
- ・経済的な損失。住職は給与保証がなく法務をしなければ無収入。10日間の無収入は正直厳しいです。蓄え(法人会計内部留保)がなければ給料もだせません。
- ・今回はたまたま法事も行事もないタイミングでの罹患だったが、忙しい時期に罹患してしまったら本当に困ると思った。体力的にも心配である。
- ・参拝者、檀信徒の来寺への対応
- ・私の場合は妻と子供が罹患したためそのケアがあり、寺院運営(檀家との打ち合わせや境内のメンテナンスなど)にもしわ寄せがでた。
- ・私一人なので、私が感染することによる檀信徒へかかる迷惑。
- ・寺院にいる全員が感染者か濃厚接触者になるので、お参りの対応ができないこと。
- ・寺院内での感染の広がりを防ぐことの困難さが分かった。
- ・寺院内で罹患した場合、檀信徒の方々がお寺にお参りできなくなることが心苦しいです。
- ・寺族への感染対策や隔離、感染中の食事等
- ・寺庭が濃厚接触者になり法事以外の来客の対応を苦慮した。
- ・朱印の授与や変更できないイベントの対応に苦慮した。
- ・収入が減りました。
- ・住職が隣県在住のため、移動ができず法務が滞り、結果的に住職を譲ることになった。
- ・住職自身の余力がなく、充実させたい思いに反して身動きがとれていないこと。
- ・住職罹患により家族や関係する人が濃厚接触者となり自宅待機となり経理やその他の業務について出来なくなってしまった。来客対応にも苦慮した。
- ・出勤できない期間が長すぎた
- ・状況が変わりやすいため、寺院運営の中長期的な計画を立てにくい。
- ・食材の買い出し。
- ・人との接触を減らしているので、コミュニケーションが不足気味
- ・人手が減って困った

- ・新型コロナウイルスによる影響という視点ですと、毎月13日に行っている「お講」といい行事に関して。各地域の方が順番で当番（それぞれ〇〇講中と呼びます。）となり、お経のあとに食事を作って参拝者に提供していたという長い歴史があります。食事がコロナ禍によりとまってしまったことにより、各地域でお寺を支えるという仕組みが弱くなってしまったと感じています。もともと弱くなりかけていた地域のつながりが、コロナ禍で顕著になりました。それがお寺にも影響を及ぼしていくだろうと予想しています。
- ・正確な情報が届かずTVや新聞等の一方向の情報しか取れない高齢者が多く、人が集まることに関してとにかく中止してほしいばかりで何事も再開したり形を変えたり出来なくなっている
- ・僧侶の中には、単なる風邪だとして、マスクの着用も拒否した方がおり、葬儀や施餓鬼の役僧などお呼びすることを躊躇った。私は良くても参列者からは理解が得られない。
- ・葬儀、法事以外の法要（祈願、水子供養、等）が昨年に比べ減少した。（16%減少）
- ・代わりに法務が出来る人がいない場合、心配である。
- ・彼岸だったので、付け届けの受け取りを無人形式にした
- ・本堂、客殿、玄関等強制排気システム工事や、本堂、玄関ビニールロールカーテン多数設置工事、受注アクリル板、アルコールマスク、グローブ等感染対策で、かなりの散財したのが、かなりの負担でした。
- ・役所への届け出などが煩雑で時間をとられた。
- ・留守番等の人探し。

(21) 今年（2022年）、新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、年回法要についてどのような相談を受けていますか。



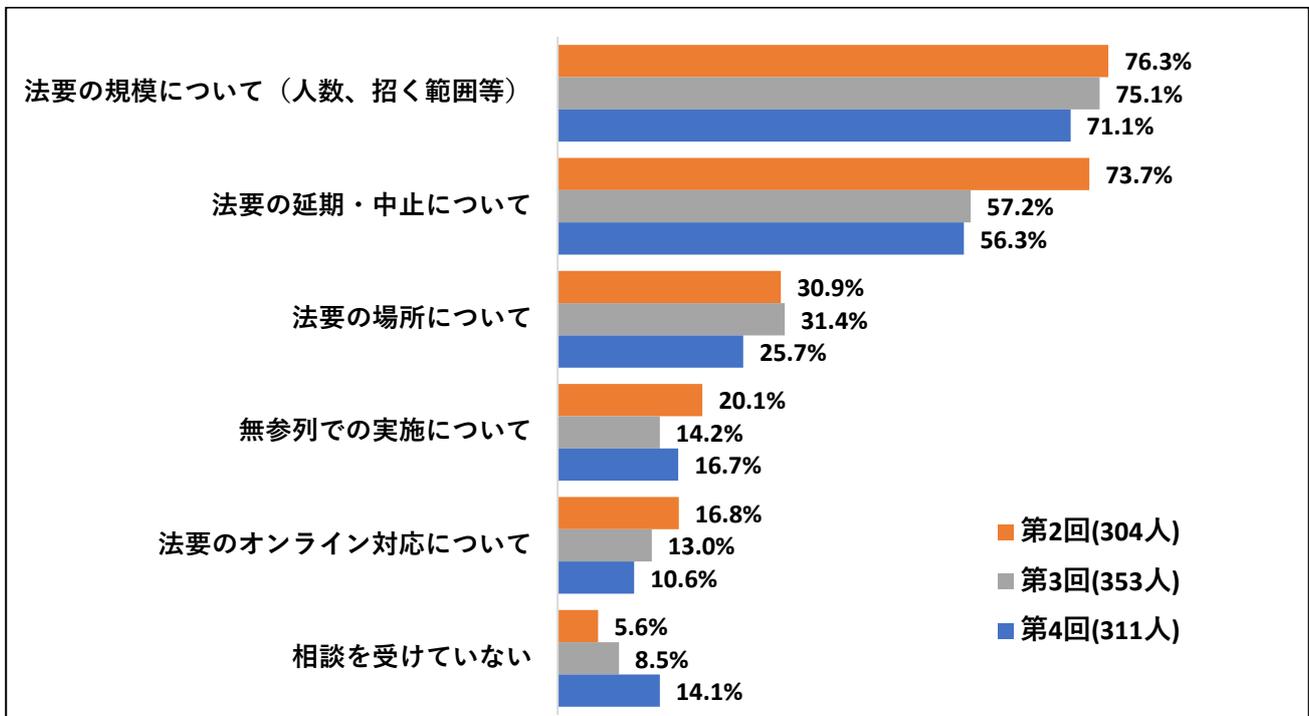
その他（自由記述）

◇会食の有無（4件）

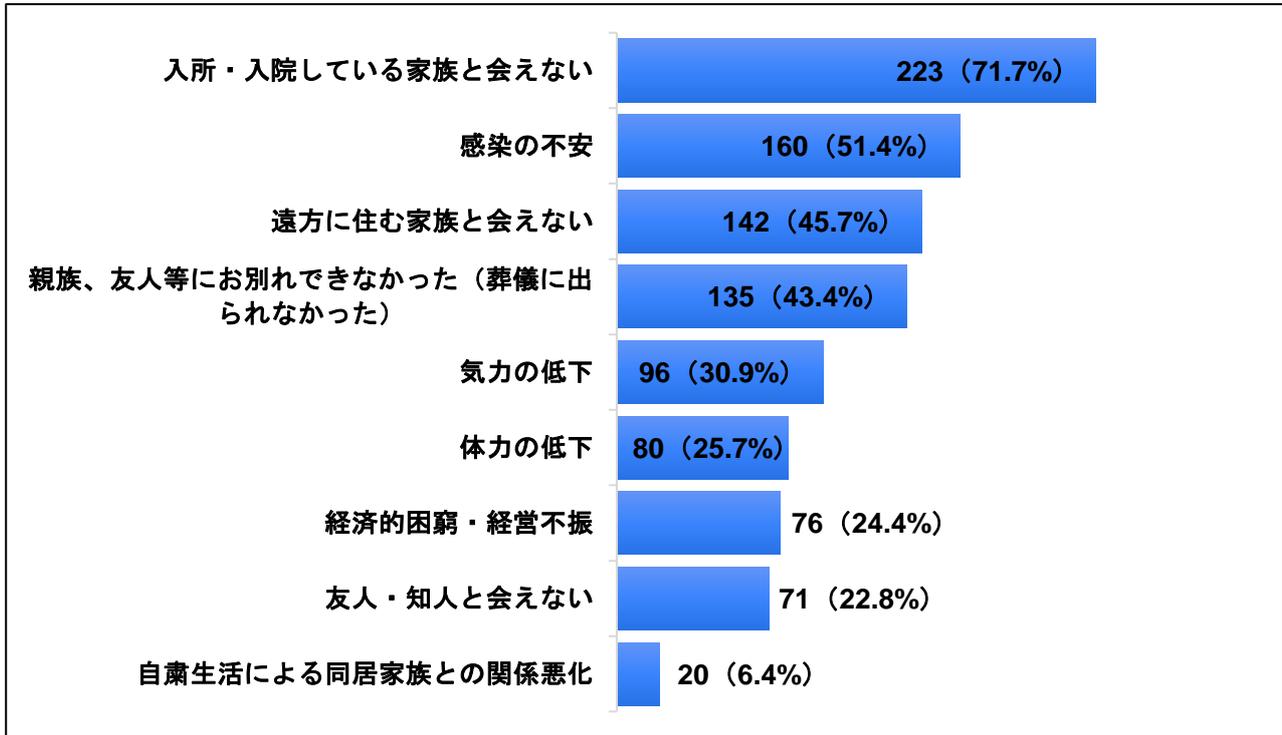
◇その他

- ・遠方からの参列を呼び掛けるべきか断るべきか。
- ・事前読経で塔婆のみ
- ・例年ならば出席するであろう（新盆等）法要への欠席の可・不可、（祥）月参りへの振替。
- ・感染して亡くなった場合のことなど

※第2回・第3回との比較



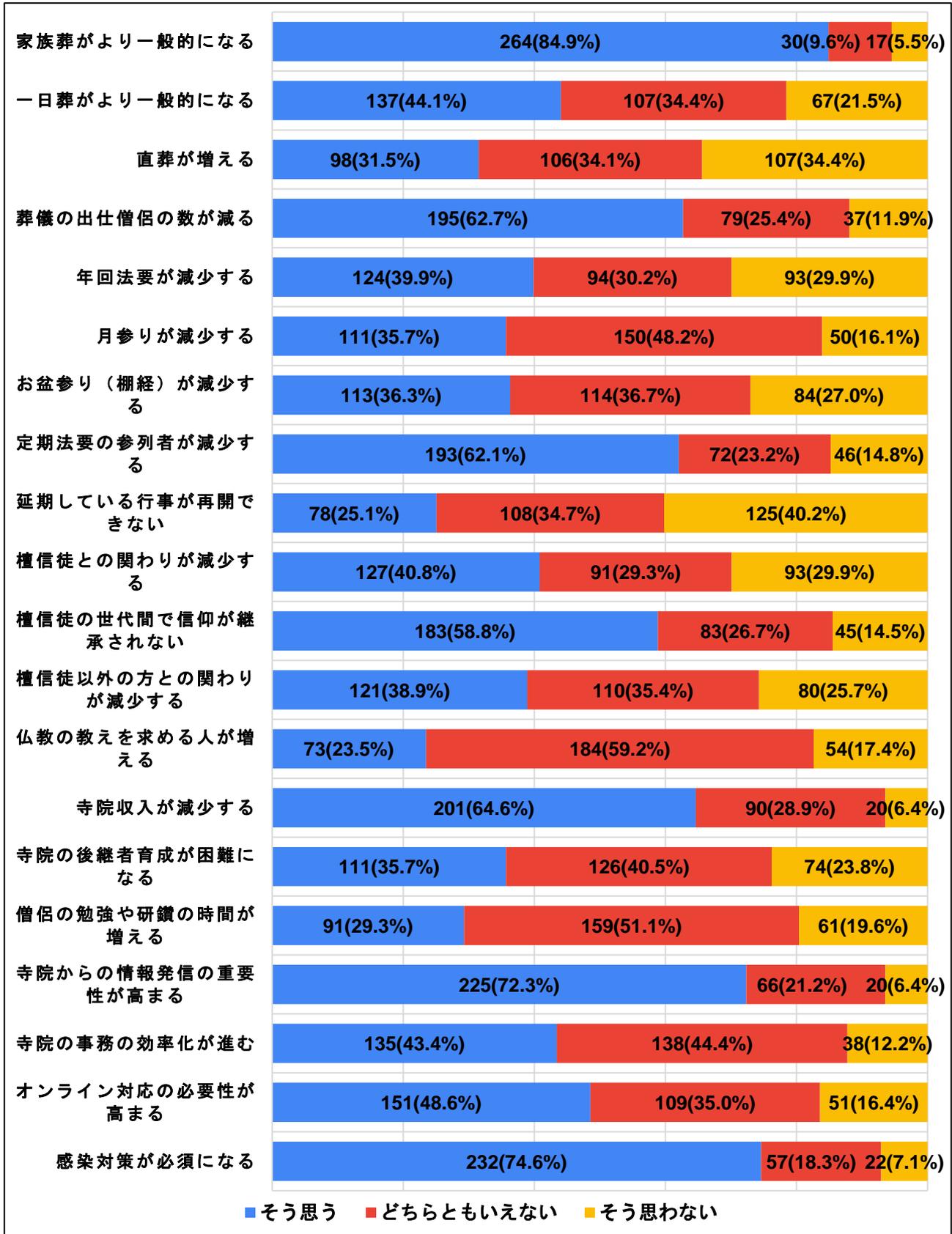
(22) 今年（2022年）、新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、生活上のどのような相談を受けていますか。



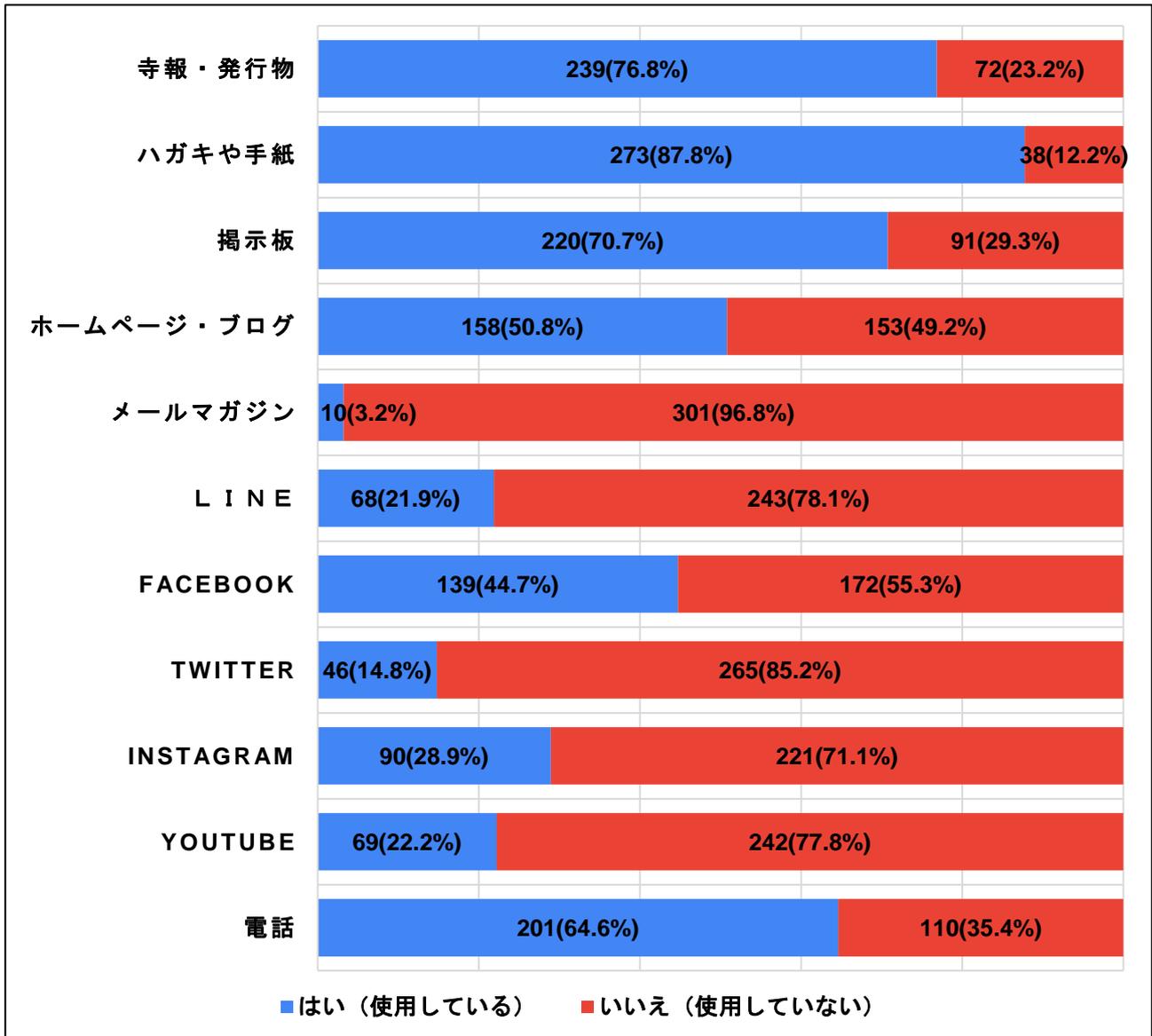
その他（自由記述）

- ・看取りが出来ない
- ・遠方の親族が葬儀にも四十九日にも参加できなかったため、納骨を遅らせたいという要望がありました。
- ・（特に遠方の）家族との疎遠による交通手段の困苦（経済的困窮にも接続）、それに伴い病院と疎遠・経済困窮等により病気不安（診察・薬の確保等）や買い物（特に食料品）の困難化、ご近所との関係悪化（遠方からの近親者の来訪等に伴う）。
- ・なにかありとあらゆるネガティブな要素が、このコロナ禍をきっかけに噴き出しているようにも感じる。
- ・ワクチン接種の可否について家族内での考え方の違い。
- ・日本人の高齢だから、言われたことを守り、外出は自粛、話すことも自粛していると急に食べ物が喉を通らない現象が現れた。医者から話をしていない筋力低下を指摘された。僧侶の来訪のみが話す機会と聞いたので、阿弥陀様、ご両親にお話する気持ちでお念仏してほしい。と答えた。

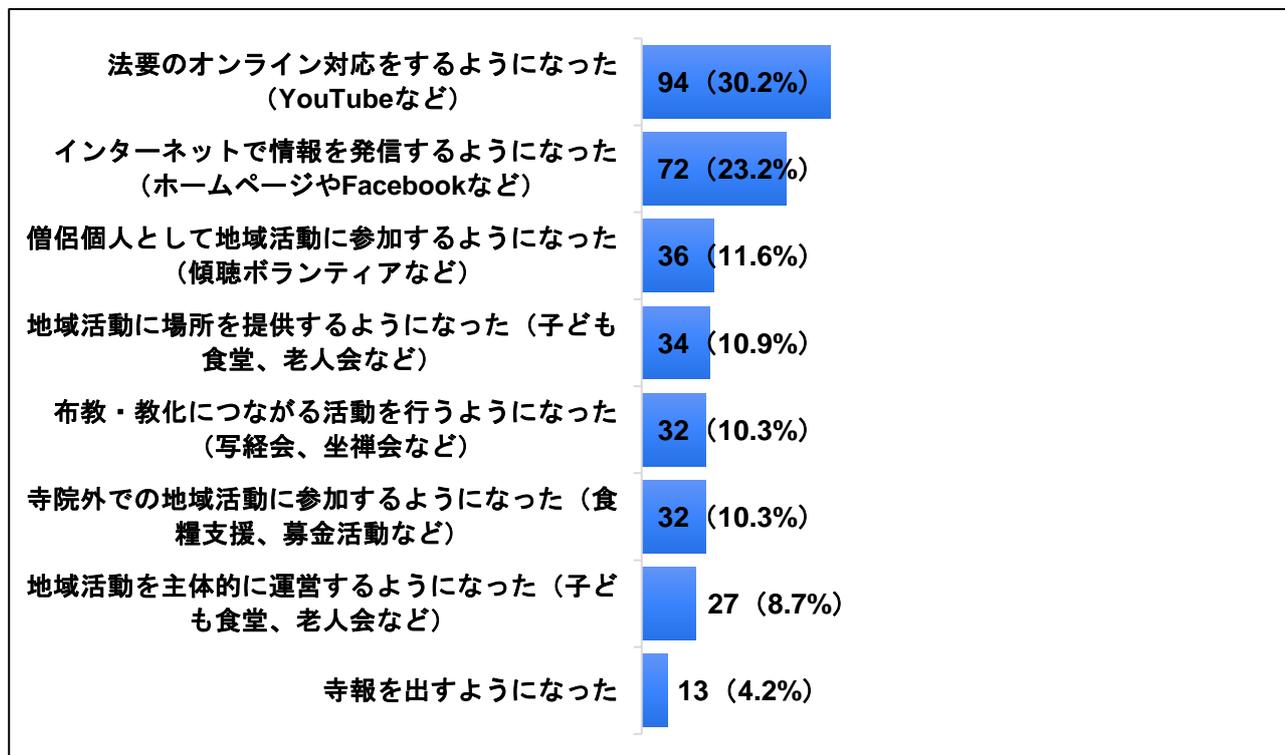
(23) 2022年12月現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、今後の法務や寺院運営に関する見通しについて、どう考えますか。



(24) 寺院からの情報発信の手段として以下のものを使用していますか。



(25) 新型コロナウイルス感染拡大以降（2020年以降）、寺院として新しくはじめたことはありますか。



その他（自由記述）

- ・LINE グループ。
- ・いろんなオンラインでの勉強会に参加。学びの機会にしている。
- ・仏教とは直接関係がない小さな会ができた。小さな会(上映会)が増えた。
- ・墓参り・法要の代行
- ・お寺ヨガやマルシェを開催して地域の人に門を広げた。
- ・民生委員・児童委員・人権擁護委員として地域と連携し始めている。
- ・お寺の中の整体（整体の先生が出張して施術している）。
- ・意見が多様化し何をしたらよいか分からない。
- ・法要のオンライン対応は、あくまで対面式と並行して行います。遠方の人や療養中の方も参加できるようになり法要参加人数はむしろ増えているかもしれません。
- ・相談活動や分かち合い類のオンライン対応。
- ・法話動画の作成をはじめた。
- ・本堂の扉を開放し、いつでも外からお参りできるようにした。

(26) ご意見やご感想等ございましたら、自由にお書きください。(63件)

※御礼等の記述は省略させていただきました。個人が特定できるような文言を一部修正しています。

- ・コロナ感染症が問題ではなくて、これまで行ってきた寺院や僧侶による活動が問題となっている点を忘れてはならないと思う。地域や個々の寺院の物理的な要因（過疎化や元来檀家が少ない等）を考慮すべきではあるが、寺院を取り巻く環境の変化がコロナ感染症を契機に一気に加速したと考えた方がいいような気がする。教化の怠慢をコロナ感染症にすり替えてはならないと肝に銘じている。
- ・デマや誹謗中傷 その他 に対して強く反対するように言動するようにしています。
- ・本を読む等、情報を取り入れる、整理する時間を増やし（増え）ました。
- ・本庁からのコロナ感染症に対しての態度を安全度を最優先としたものに更新してほしい（正常化バイアスへの注意喚起等）。→行動基準を総合病院（感染外来受付可）勤務者に準じたもの、参考にしたものにしてほしい、少なくとも医療崩壊に寄与しない程度に厳格化してほしい。これに関して、去年はオリンピック開催に関して、法話等（全国配信含む）にて賛美の声も多数あったように感じます。（当回答者は開催が感染拡大に寄与したと考えております。）
- ・これまで対外的活動を積極的に行ってきたが 事業や活動を見直すきっかけとなった。人口減少と高齢化が著しい地域となるため 小さな運営に徹して備えていきたいとおもっております。
- ・コロナが原因なこととそうでないことを見極めたい。今までも大変な時期があったので平常でいる。
- ・コロナが寺院にとって必要なものをはっきり教えてくれた。これからはお寺自身が淘汰されていく時代になったと思う。
- ・コロナの環境云々の前に、僧侶の布教に対する意欲がそもそも低く感じている。そのため、廃れる寺院は廃れる(僧侶の高齢化はしかたない)。コロナはそれまでの活動の評価を顕現化させただけのように思う。
- ・コロナの関係でそうなっているのか、元々そういう傾向にあったのかを区分するのは難しい。「そうおもわない」と答えたものには「そうなっているのは確かだがコロナに関連してではないと思うので」選択したのものも含まれている。
- ・コロナを言い訳にしている僧侶がとても多く感じ、虚しく思います。
- ・コロナを受けての変化というよりは、門徒の世代交代により、月参りやお盆参りなどご自宅に伺うようなお付き合いを望まれない方が増えてきたことが減少の原因と思われる。
- ・コロナに関連した変化では、遠方の親族を頻繁に呼べないとの理由で「一周忌と三回忌を一緒にお勤めしたい」「三回忌ではなく五回忌でもいいか」といったイレギュラーな要望を聞くことが増えました。自坊ではお勤めしたいという気持ちを優先して柔軟に対応しています。
- ・コロナ以前に戻すよう伝えている。
- ・コロナ禍が終わっても、グローバルの時代、これからも定期的にパンデミック感染症があり得るので、十分備える必要があると思いました。
- ・コロナ禍により、自ら門を閉ざしたり、檀信徒との関係を絶ってしまった寺院もあるようだ。コロナ禍だから葬儀を受けられないから、葬儀屋が契約している寺院に依頼してという話も聞く。寺院の価値観で一方的に判断することで寺離れが進んでしまうことを危惧している。
- ・コロナ禍に於いて、寺院の力が試されている感じがする。伝統も大事だが、変化する世の中にどれだ

け柔軟に対応できるかが、教え導く宗教者の力量が試される。

- ・コロナ禍は、それ以前、以後と画期できてしまうような変化を、社会全般にもたらしているように思う。ここをぜひ皆さんと乗り越えていきたい。
- ・コロナ禍より昨年までは参列者無しで、今年は久しぶりに人数制限をしたうえで定期法要を務めました。こちらが思っているよりも、出席したいという意見を多くいただきました。皆様も外に出るのを待ち望んでいるよう感じました。コロナの感染状況にもよりますが、来年あたりからは、元の状態での開催を検討したいと思います。
- ・コロナ後 60 件程の葬儀を実施しましたが直送 1 日葬は 0 件でした。市内のお寺も同様に皆無の様です。地域差が有るのでしょうか？
- ・ダーウィンの言葉通り、お寺も変化するものが生き残るのでしょうか。
- ・だいたいさまざまなことが安定化してきた感があります。一方で、模索をしてきた方々とそうでない方々の格差がかなりついてしまっている感じがします。リモートなど高齢者はできないと切ってしまったところは、そのまま若い世代への道も切ってしまうことを自覚すべきだと思う。しかしながら、さまざまな指導的位置にある方が、このような変化を求めていることも、明らかになってきており、今だけでなく、これからの寺院を取り巻く環境に深く憂慮する。
- ・もっと一般的になるかと思ったが、オンラインを用いた法要が、以外と広まっていないように感じる。
- ・施餓鬼等で食事を用意することができなくなったが、その負担がなくなった。
- ・こここのところで、御朱印を求める人がまた少しずつ来ようになった"
- ・より一層地域連携やコミュニケーションの方法を広げていくことが一層重要になっていきます。
- ・家族葬が増えていることは感じますが、コロナによる変化というよりも、コロナにより加速したことのように思います。しかしなんらかのお弔いをしなければならない、という気持ちには特に変化はないように感じています。コロナに関係するかどうかは微妙ですが、行事などでまとめて相手をするよりも、個々のお参りに細かく対応し、個人個人との対話を増やすことが重要なことと改めて感じます。
- ・各寺院の住職の力量が問われる時とでしょう。法要、葬儀の縮小、延期に対応する策を常に考え、皆で共有していきたいものです。共に仏教の力を最大限に生かして参りましょう。
- ・活動の再開について質問項目を作ってほしい。
- ・教化以前に、自粛生活で住職の体力・気力の低下、その他寺庭の悩み等で不安しかない。
- ・元々こうなることが早まっただけのこと。準備をしている寺は逆に大展開のチャンスです。寺院格差が広がります。檀家総入れ替えを徹底して行っています。コロナ前より、葬儀件数は数倍増えています。
- ・御詠歌、ヨガなどは再開したが、棚経参り、年始回りの他、写経会・瞑想などの月例行事はまだ再開していない。各イベントの感染の危険性・安全度は変わらず、その線引きは難しいが、再開した御詠歌・ヨガについては全ての参加者に事前事後の連絡ができるため、お互いに身の安全を守ることができる。不特定多数に向けた活動、及び広範囲にわたる活動は、ポストコロナにおいても実施は難しくなるのかもしれない。
- ・好感を持つような CM などを放映するような無責任な葬儀仲介(ピンハネ)業者に振り回されないように注意したい。

- ・幸い影響が少ない寺院だと思えます。法事・葬儀も感染が落ち着いたら以前のように盛大につとめたいという声をよくお聞きします。そうなってほしいと思っています。
- ・今、出来る目の前のことをひとつずつがんばって参りましょう。
- ・今後の寺院運営について、建設的な議論の場があればと思う。
- ・最近情報が錯綜していてどこに主眼を置いて話をしていいのか迷うことが多い。コロナの実態、ワクチンの必要性等々疑問点が多い。世の中がマスコミに誘導されていることや今後の日本の姿を今回改めて考えさせられることになったのは、視野を広げるという意味では有難い経験となったように思う。
- ・寺院と地域とのつながりで、お寺は何が出来ると考えています。
- ・取りまとめお疲れ様です。東京都都心部は3年目になり、回忌法要の数や参列者、会食は戻ってきたものの、水面下で菩提寺が忘れ去られていく不安がぬぐえませんが、引き続き研鑽を積みたくて感じています。
- ・宗教離れの加速を実感している。「コロナ禍」の大義名分を理由に法務を断られるケースが目立ってきている。一度法務を断ってきた家は…感染拡大が終息してきたから法務再開とはいかない現実。法務収入のみならず、護寺会費(年会費)の不払いも当たり前様に出てきた。「寺に住職がいなければ(無住)檀家は困るが…必要な時(葬儀や法事等)にさえ参ってくればそれでいい。普段(月命日等)はお金(布施)もかかるから参らんでいい」と言う住職泣かせの風潮も現実にある。「住職はいなきゃ困るが…布施は出したくない」と。当寺は後継者(長男)はいるが、寺を継がすのは難しいと思う。正直、法人(寺)解散も視野に運営せざるを得ない。本山も「各々の法人の問題」として、困窮している寺院の手助けもしない。
- ・住職が主導でやっているの、SNSを含め新しい事を取り入れづらい。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行もさることながら、テレビCMやネットなどで配信される葬儀仲介業者や僧侶派遣業社による漸進的な影響も大きいのではないかと思います。たとえば、全日仏や主要業界紙が【全日本葬祭業協同組合連合会】による「葬儀に関わる僧侶の実態調査」をもとに様々な言及をしているが、現場の力関係はむしろ逆転していて、そのことが儀礼などの簡略化や儀式そのものの形骸化、俗名による葬儀の増加などに影響を及ぼしている面も否定できないと思います。
- ・新型コロナウイルス感染症を意識しない社会が来ることを待望しています。
- ・先祖供養でない法要参加者の人数が減っている。仏法をしっかりと説いていくことが大切だと感じる。
- ・僧侶として、本来の仏教を今一度見直し深める機運だと考える。また世間の動向とは逆に、信仰への関心が若い方から聞かれる様になったと感じる。
- ・早くコロナウイルスの感染拡大が止み、終息することを願いますが、現実としては厳しいので、このコロナ禍でできることを考えて、行動していきたい。このコロナ禍で分断された、お檀家様と寺院との関係を繋ぎ止めることが重要。コロナ終息後も、ご葬儀やご法事の縮小化が進むことを想定して、寺院運営が考えて、「寺院消滅」を食い止める施策を、真剣に考えて、取り組んでいきたい。
- ・葬儀等の規模の縮小、家族葬などはコロナ以前からであり、コロナだからという事は無いと考えています。僧侶と話していてもコロナで～と言う人が多いですが、葬儀屋さん等の定量データから判断しないと難しいと思っています。
- ・対面の法事・法話は重要である。

- ・地域共同体の崩壊が一気に進んだ感じがします
- ・コロナについていえば、もはやコロナのせいとは言えない時期にきていると思います。コロナはもともとあった潮流を加速させただけ。仮に加速しなくても、手を打てるような寺はそうなかったのではないかと推察します。逆縁にも思えますが、危機感を与えるための如来の思し召しと思えなくありません。
- ・調査の結果を今後の寺院運営に活かせる様な提言を発信していただきたいです。
- ・調査結果が次の世代に持続するよいアドバイスになりますように
- ・当地域は葬儀社は伝統を守ることに注力してくれています。時には身銭を切る形で対応もしてくれているおかげでコロナ禍でも苦慮するところは少なかったです。葬儀社の役員の方はそう思っている、営業は喪主の意向という理由で楽な方にと考えるふしがあるとある会合でおっしゃっていました。
- ・特定の宗教に入信→信者→お付き合いの型(意識)よりも、各宗教(宗派)の行事の中から個人がピックアップして体験される型(意識)を感じる事が更に多くなりました。
- ・飛沫感染になってきた今、相変わらず煽るメディアに辟易している。
- ・例えば、葬儀や法要は行いたい規模は小さくしたい(人は呼びたくない)。という現象は、コロナウイルスがそれを引き起こしたのではなく、コロナウイルスをきっかけにもともとあった人々の志向が顕在化したに過ぎないのではとも考えています。つまり、もしかしたらこれからの数年で定着する形式こそが現代人が本来求めている姿なのかもしれません。より身近な例でいえば、忘年会や地域の行事などにも同様のことがいえるような気がします。